

可認局遞驛

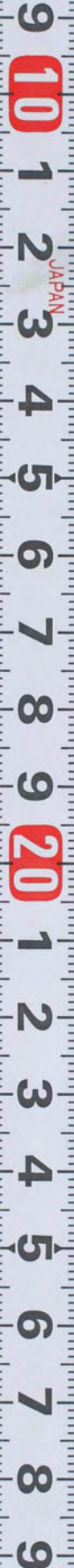
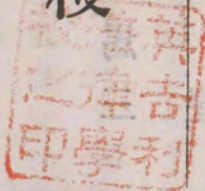
明治二十年一月八日發兌

第壹年級

英吉利法律講義錄

第十七號

英吉利法律學校



目次

○論理學

文學士

坪井九馬三

○動產委託法

法學士

元田肇

○經濟學

駒井重格

○法學通論

法學士

山田喜之助

○組合法

法學士

松野貞一郎

○判決錄

法科大學
卒業生

植村俊平

○差留權

ばりすと

リツチフヒルド

Whateley.

此ニ由リテ之ヲ觀レハ怪物ハ賢者ナリトス固ヨリ適當ノ語ニアラス
 然ルニ此怪物ト云フ上ニ或ルト云フ辭ヲ附シ或怪物ハ賢者ナリト云
 ヘハ圖ニ照スモ毫モ差支ナキナリ必竟此場合ニ於テハ第三ハ不周義
 ナラサル可カラス

論式規則ヲ論ス

論式規則ハ左マテ古キモノニアラス英國イホッエートレイ氏ノ定言ニヨ
 レハ此規則ハ六ヶ條ヨリ成立セリ是ノミニテハ不便ナリトテ後世ノ
 人考へ出シテ二ヶ條ヲ加へ都合八ヶ條トナシ爾來之ヲ遵用セリ近頃
 ニ至リテ更ニ一ヶ條ヲ加へタル者アレトモ其ハ區別スル程ノモノニ
 アラス唯前ノ八ヶ條ヨリ更ニ一ヶ條ヲ敷衍シタルモノニ止マル而シ
 テ論理學者ハ右ノ規則ハ悉ク之ヲ暗誦シ居ラサル可カラス左ニ其箇
 條ヲ舉示セン

第一條 大凡論式ニハ三語アル可ク又三語ニ限ルヘシ

此場合ニ於テハ語ナルコトヲ了知セサル可カラズ毎度云フカ如ク語ハ文法上ノ意味ニアラスシテ一纏ニ爲リタル者ヲ示スモノナリ而シテ此考タル有形無形ヲ問ハス又之ヲ示ス字面或ハ言辭ニ拘泥ス可カラズ唯同意ナレハ之ヲ同語ナリトシ其述ル所異ナルモ意味相同シケレハ之ヲ同語トナス然レトモ同語ナルノ故ヲ以テ意味相同シキモノト思惟ス可カラズ

此三語アル可ク又三語ニ限ル可シト云フ事柄ハ一樣見易キモノ、如クナレトモ其實決シテ然ラス今此場合ノ例ヲ示セハ

- 第一 來ル者ハ來ル
- 第二 某氏ハ來ル人ナリ
- 第三 故ニ某氏ハ來ル可シ

此論ハ宴會ノ席ナトニ於テ能ク使用スルモノニシテ誠ニ確實ナルコトナリ而シテ來ルト云フコトヲニ義ニ用キタリ統語ノ來ルト云フコト、媒語ノ來ルト云フコト、ハ異リ媒語ハ人物ヲ論シ統語ハ會席ニ來ルヲ指シ舉動ヲ云フモノナリ即チ某氏ハ來ル云々ノコト是ナリ此二語ヲ用キテ此論ヲ確實ナラシメタリ

更ニ同語ニテモ其意味ノ異ナル適例ヲ示サンニ

第一 紅葉モミヂハ風雅ノ友ナリ

第二 書生ハ好テ紅葉ヲ食フ

第三 故ニ書生ハ好テ風雅ノ友ヲ食フ

此論ハ不可ナルカ果シテ不可ナリトセハ其ハ何レノ點ソヤ曰ク此論ニハ紅葉ヲ二語ニ用キタリ一ハ木ヲ指シ一ハ通語ニシテ獸肉ノ意味ニ使フ即チ紅葉ト云フ同語ヲ以テ二重ノ意味ニ用キタリ是レ其誤ナ

リ
又一様ハ相違セルモノ、如クニシテ實際相違セサル場合ヲ解カシニ
其第一ニ馬鹿ニ附ケル藥ハナシ
第二ニ兎ハ馬鹿ノ獸ナリ
第三ニ故ニ兎ハ箸ニモ棒ニモカ、ラス
此ハ(一)馬鹿ト(二)附ケル藥ナシト(三)兎ト(四)箸ニモ棒ニモカ、ラストノ
四アリ然レトモ此論ノ正當ナル敢テ疑ヲ容レズ是レ附ケル藥ナシト
箸ニモ棒ニモカ、ラスト云フハ同意味ナルヲ以テナリ即チ論式ニ事
柄六ツアルトテモ三ツト爲ルトキハ其ハ正シキモノトナル必ス命題
ノ精神ヲ見テ言辭ニ拘泥ス可カラサルナリ此規則ヲ犯セルモノヲ四
語ノ誤ト云フ
其第二條大凡論式ニハ三命題アル可ク又三命題ニ限ル可シ

是ハ説明ヲ要セスシテ解セラル可シ何トナレハ凡論式ハ三命題ヨリ
多クテモ少ナクテモ不可ナレハナリ
其意ヲ第三條大凡媒語ハ少クトモ一度周布セラル可シ而シテ其意

義ハ曖昧タル可カラス

例へハ東京人ハ日本人ナリ

第二 某氏ハ日本人ナリ

第三 故ニ某氏ハ東京人ナリ

之ヲ云フコトヲ得ルヤ否ヤ固ヨリ其不可ナルコト明ナル可シ蓋シ媒
語ハ不周布ナレハナリ即チ日本人ハ兩ラ賓位ニ來リ居ルヲ以テナリ
之ト同シクゼボン氏等ノ常ニ出サル、例ニ

第一 吝嗇家ハ金錢ヲ惜ム

第二 某氏ハ金錢ヲ惜ム

第三 故ニ某氏ハ吝嗇家ナリ

是モ前ト同様金錢ヲ惜ムト云フ媒語ハ不周布ナリ實際ヨリ見ルモ金錢ヲ惜ム者ハ悉ク吝嗇家ト謂フヘカラサルナリ同シ例ニテモ前ノモノハ有形ニ屬スルヲ以テ解シ易ケレトモ後ハ無形ニ屬スルヲ以テ少シ解シ難キ所アリ
斯ノ如キヲ媒語不周布ノ誤ト云フ

第四條 大凡語ハ提案ニ於テ周布セラル、ニ非サレハ又斷案

ニ於テモ周布セラル、ヲ得ス

此意味ハ凡テ論式ハ三命題ヨリ成リ初メノニツテ提案ト云ヒ而シテ其ニテ周布セサルトキハ斷案ニ於テモ亦周布セサルモノトス然レトモ提案ニ於テ周布スルモノヲ斷案ニ於テ周布セサルハ固ヨリ隨意ナ

ナリ但シ提案ニ於テ周布セサルモノヲ斷案ニ於テ周布スルコトハ到底出來得ヘカラサルコトナリトス今之ヲ式ニ由リテ解スレハ

第一 凡テノ甲ハ丙ナリ

第二 何等ノ乙モ丙ニ非ス

第三 故ニ何等ノ乙モ甲ニアラス

此場合ニ於テ乙ハ周布セリ論者ニ於テ之ヲ隨意ニ云ヘハ左ノ如シ

ハ二三ノ乙ハ甲ニ非ス

斷案ニ於テ不周布ナルニ提案ニ於テ周布ナルモ別ニ差支ナク即チ此時乙ハ結構ニ言ヒ通セルヲ以テ乙全体ニ於テ之ヲ退クルコトヲ得故ニ又其一部分ヲ退クルコトヲ得ルヤ勿論ナリトス但論スル者ニ於テ此一部分ヲ用キルコトハ大ニ損スルモノナルヲ以テ餘リ用キル者ナシ

規則第四條ノ例ヲ示セハ

其第一賢人ハ少シ

第二少キ者ハ怪物ナリバケモノ

第三故ニ怪物ハ賢人ナリ

此論ノ論理ニ合ハサルハ言ヲ竣タサルコトナレトモ其不可トスル所

ハ那邊ニ在ルカト云フニ此少キ者ト云フハ媒語ナリ第一命題ハ不周

義ナレトモ又直ク折り返シテ言フ故(ア)ノ命題トナル而シテ怪物ト

云フハ副案ニ於テ不周布ナルニ斷案ニ於テ周布セリ是レ其不可ナル

所以ナリ

之下同例ニシテ

第一官吏ハ賢明ナリ

第二某氏ハ官吏ニ非ス

ス所ノ注意ヲ缺クヲ云フ此三種ノ別ニ從ツテ各責任ノ差ヲ生スルナリ而シテ又此等注意ノ程度責任ノ大小ハ前ニ述ヘタル如ク時ト場所ト又危険ノ多少土地ノ習慣等ニヨリ變更ヲ生スルモノナリ
 次キニ論スヘキハ此迄述ヘ來リシ處ノ注意ノ程度ハ法律上如何ニ之ヲ適用スヘキヤノ問題はナリ而シテ今其適用ノ法ヲ案スルニ蓋シ左ノ三種ニ區別シ得ヘシ

第一、委託者ノミノ利益ノ爲メニ爲シタル委託ノ場合
 コノ場合ニ於テハ通常ヨリ少キ注意ヲ用フルヲ以テ足レリトス故ニ大過失アル時ノ外賠償ノ責ニ任スルヲ要セス譬ヘハ一物品ヲ全ク保存ノ爲メニ他人ニ寄托スル時ニ於ケルカ如シ
 第二、受托者ノミノ利益ノ爲メニ爲シタル委託ノ場合
 コノ場合ニ於テハ大注意即チ通常ヨリ多クノ注意ヲ要スルカ故ニ小過失アルモ辨

償ノ責ニ任セサルヲ得ス譬へハ受托者ノ使用ノ爲メ一物品ヲ寄托スルカ如シ

第三、委託者受托者雙方ノ利益ノ爲メニ爲シタル委託ノ場合コノ場合ニ於テハ通常ノ注意ヲ要シ從テ通常ノ懈怠(即チ通常ノ過失)アリタル時ノミ辨償ノ責ヲ負フモノトス譬へハ一物品ヲ質入スルカ如シ右ノ如ク委託ノ場合ヲ三種ニ區別シテ各其責任ヲ異別スルコト佛法羅馬法亦皆然リトス

然ラハ則チ以上ノ原則ニヨリ一般ノ寄托動産ニ於ケル注意ノ程度懈怠ノ責任皆ナ同一様ナルヘキヤト言フニ是決シテ然ラス假令同一種ノ委託ノ場合ト雖モ物品ノ性質、價格等ニヨリ大ナル區別ヲ生ズルモノタルコト勿論ナリトス譬へハ貴重ナル物ト否ラサルモノト又薄弱ナル物ト強固ナルモノトノ間必スヤ注意ノ厚薄ニ於テ大ニ差異ナキ

能ハサルカ如シ然レトモ此等ノ點ハ畢竟一定ノ規則ヲ置クヘカヲサル所謂事實上ノ問題ナリトス故ニ唯一般ニ規定スヘキノ點ハ注意ノ程度ニ應シテ責任ヲ定ムルニアルノミ其各箇ノ場合ニシテ何等ノ注意ヲ要スルヤハ陪審官ノ判定ヲ待テ決スルモノニシテ豫メ一定スル能ハサルナリ是レ英法上各般ニ適用スヘキ一定ノ程度規定シアラサル所以ナリ但シ左ノ場合ハ法律上豫メ定マリタル取除ナリトス

第一、アクトオフアット神ノ所爲、地震、水火災、暴風雨等不時ノ災厄ノ爲メニ委託物ノ損傷セル場合ハ法律上受托者ニ於テ其損害ノ責ニ任セサルモノトス

第二、イルレシスチアルフオールス抵抗スヘカヲサル勢力、海賊、公敵、強盜等ノ爲メニ掠奪セラレタル場合モ亦前同様受托者其損害ノ責ニ任セサルモノトス但シ竊盜ノ所爲ニ就テハ數説アリ或ハ曰ク一應不注意アリト見做サ、ルヘカラスト或ハ曰ク別段ノ證ナキ限りハ不注意アルモノトハ認ム可ラス

ト予ハ以爲ラク單ニ竊取セラレタリト答フルノミヲ以テ其責ナシト
 スルハ穩當ナラス必スヤ受托者ニ於テ不注意ナキコトヲ證明スヘキ
 舉證ノ任アルモノナリト之ヲ再言スレハ所謂一應不注意アリト認ム
 ヘキモノト思考スルナリ蓋シ一應何々ト認ムルトハ法律上ノ詞ニシ
 テ之ニ反スルノ證ナキ時ニ効力アルノ謂ナリ故ニ若シ之ニ反スル證
 據ヲ舉クルトキハ其認定ハ直チニ破ル、モノト知ルヘシ聊カ注意ノ
 爲メ一言ヲ添フ

取除ノ場合ハ右ノ如キニ過キス而シテ上來講述スル所ハスヘテ特約
 ナキ場合ヲ云フモノニシテ若シ特約ヲ以テスルトキハ苟モハブリックボリシイ一般ノ安
 寧若クハ現行法律ニ違背セサル限りハ何事ニテモ爲スチ得ヘク如何
 ナル契約ヲ結フモ其効アルモノトス但シ受托者ニ於テ若シ詐欺ノ爲
 メニ損害ヲ醸ストキハ假令如何ナル契約アリトモ其責ヲ免ル能ハサ

ルナル

又委託契約ニ於テ若シ契約書ノ意義兩様ニ解シ得ヘキトキハ受托者ノ爲メニ利益アル解釋ヲ爲スヲ以テ法トス但シ此規則アリト雖モ恒ニ受托者ヲ保護スルノ意ニ非ス其兩様ニ解シ得ヘキ場合ニ限り受托者ヨリ寧ロ受托者ノ爲メニ利益アル解釋ヲ爲スヘシト云フニ在リトス此レ蓋シ解釋法上一般ノ通則ニ外ナラサルナリ

又「ミスフイーザンス」ト「ネグリゼンス」ノ別ヲ知ラサルヘカラス「ミスフイーザンス」トハ契約通りニナサスシテ過失ヲ生スルヲ云ヒ「子グリゼンス」トハ契約ヲ行フ進路ニ於テ生スル怠慢ナリ譬ヘハ貨物ヲ某漁船ヲ以テ送り呉レヨト委託セシニ其運送中受托者ノ不注意アリ之ヲ竊ミ去ラレタルカ如キハ「子グリゼンス」ナレトモ其受托者某漁船ニ托セスシテ他ノ鐵道等ニヨリ送りシ爲メニ損害ヲ生シタルカ如キハ「ミスフイー

「ザンス」ナリトス故ニ「子グリゼンス」ハ懈怠ト譯シ「ミスフーザンス」ハ反約ノ非行ト云フテ可ナラン歟蓋シ委托法中無賃委托ノ場合ニハ單ニ受托者ニ於テ委托ノ事ヲ行ハサルノミニテハ委托者ヨリ之ヲ責ムルノ權ナキモ若シ其委托物件ニ付反約ノ非行アレハ直ニ要償ノ權アリトス

又受托者誤テ委托物ヲ他物ト混合スルコトアリ但シ是レハ其場合ニ依リテ法律上ノ結果自ラ異ナリトス即チ左ノ如シ

(第一)分チ得ヘキ場合譬ヘハ米ト麥トヲ混合スルカ如シ其物品ヘ毫モ變化ヲ起サ、ルヲ以テ各々之ヲ分チ取ルヲ得ルモノトス

(第二)分チ得ヘカラサル場合譬ヘハ二物其性質、價格、品位等皆同一ナル所ハ其分量ニ應シテ分チ取ルヘキモノトス同種同價ノ酒ヲ混合セルカ如シ

(第三)區別スルコトヲ得ス又分量ヲモ定ム可ラサル場合譬へハ異種ノ
混和スヘキ物ヲ混合シタルトキハ受托者ハ自己ノ部分ヲ失フモノト
ス
要スルニ右三種ノ場合ヲ以テ萬般ニ適用スルヲ得ヘシ曾テ船積ノ綿
荷、風雨ノ爲メニ其目票ヲ失却シ其何レカ何人ノ部分ナリシヤ判然タ
ラサルニ至リシコトアリシカ當時其分量若クハ個數ニ應シテ現物ヲ
分子取ルヘキモノト判定サレタリ是レ蓋シ第二則ヲ適用セシモノトス
以上動產委託法ノ全體ニ關スル事柄ヲ述ヘタリ仍ホ是ヨリ直チニ委
托法ノ本領ニ入ルヘキナレトモ尙ホ本領ニ入ルニ先テ聊カ説カサル
可ラサルモノアリ他ナシ委託法ノ部類分是ナリ蓋シ此事ニ就テハ古
來學者ノ間頗ル紛雜ヲ極メタレトモ今一々之ヲ説クノ要ナケレハ余
ハ只現今最モ行ハル、所ノモノニ就キ零説スル所アラントス

動産委託法ヲ分テ三大部トス(第一)委託者又ハ第三者ノ利益ノ爲メニ
 スルトキ(第二)受托者ノミノ爲メニスルトキ(第三)委託者受托者雙方ノ
 利益ノ爲メニスルトキ又ハ雙方ノ内一人及ヒ第三者ノ利益ノ爲メニ
 スルトキ
 右ノ三大部中更ニ再別スレハ第一ヲ「デポジット」及ヒ「マンドレート」ノ二
 種ニ分チ第三ヲ「プレツヂ」又ハ「ポウシ」及ヒ「ハヤリング」ノ二種ニ分ツ
 「デポジット」及ヒ「マンドレート」ハ共ニ無賃委託ニシテ「デポジット」トハ單
 ニ保管ノ爲メ無報酬ニテ或ル物品ヲ委託スルヲ云フ通常稱スル所ノ
 「預リ」ナルモノ是ナリ
 「マンドレート」トハ無賃ニテ一ノ場所ヨリ他ノ場所ヘ物品ヲ運送スルカ
 又ハ勞役ヲ加フル爲メ物品ヲ引渡スヲ云フ
 右二者大差ナシトイヘトモ英法上之ヲ區別シタルハ前者ハ專ラ預リ

置クコトヲ主トシ後者ハ運送又ハ勞役ヲ加フルコトヲ主トスルノ差
異アルヲ以テナリ蓋シ此等ノ區別亦皆羅馬法ヨリ來ル所ナリ
第二ノ部類ハ單ニ受托者ノ利益ノ爲メニ爲シタル委托羅馬法ニテ之
ヲ「コンモデタム」ト云フ卽チ無賃使用ノ委托ナリ
第三ノ部類ニ屬スル有賃委托ノ中「プレツヂ」又ハ「ポウン」トハ負債若ク
ハ他ノ取引ノ爲メニ抵當トシテ貨物ヲ委托スル質入ノ事ニシテ卽チ
雙方ノ利益ノ爲メニスルモノナリ「ハイヤリング」トハ其他數般ノ有賃
委托ニシテ卽チ賃錢ヲ取り或ハ之ヲ與ヘテ物ヲ托スルヲ云フ今之ヲ
細別スレハ通常有賃委托特種ノ有賃委托及ヒ准有賃委托トナル通常
有賃委托トハ委托法ノ通則ヲ適用スヘキモノニシテ羅馬法ニ所謂「ロ
ケシヨ、コムダクシヨ」ニ同シ又之ヲ細別スレハ「ロケシヨ、コンダクシヨ、
レイ」卽物品使用ノ賃貸委托及「ロケシヨ、ナペリス」卽有賃ノ加功委托ノ

二者トナルヘシ而シテ又後者ハ更ニ分テ有償保監若クハ加工及有償ノ運搬トナスヲ得ヘシ〔特種ノ有償委託トハ英法ニ於テ特ニ責任ヲ負ハシメタル委託ノ場合ヲ云フモノニシテ即チ旅人宿普通運業者等ノ如シ〕又准有償委託トハ其本質ニ於テハ有償委託トナス可ラサルモノナレトモ多少比準スヘキ點アルヲ以テ茲ニ掲クルモノトス

以上述フル所ハ概子ストリー氏ノ類別ニ依ルモノナリ蓋シ其詳カナルコトハ後日其各編ニ到リシ時ヲ以テ講述スヘシト雖モ學生諸君ヲシテ先ツ動産委託法ノ範圍類別ノ大体ヲ腦裏ニ記セシムルハ大ニ本法ヲ解得スルニ効アリト信スルニ付茲ニ之ヲ概説スルモノナリ尙左ニ表ヲ掲テ參照ニ便ス

「デボシツト」即
千無賃保監
(一)

動 産 委 托

委託者又ハ第三者ノ
利益ノ爲メニスル者

「マ」ンデイト即チ無
賃運送若クハ加功
(二)

受託者ノ利益ノ爲メ
ニスルモノ

「コ」ムモデタム即
チ無賃使用貸借
(三)

雙方又ハ雙方ノ一
ト第三者ノ利益ノ爲
メニスル者

「プ」ヂレツ又ハ「ポ」
ン即チ動産質
(四)

「ハ」イヤリ「グ」
即チ有償委託
(五)

「ロ」ケシヨ「コ」ンダ
ク「シ」ヨ「レ」イ「即」チ
使用ノ賃貸借
物品

動産委託法

三十一

一九

二八

有價委託

通常有價委託

特種ノ有價委託

准有價委託

ロケシヨ、ナペリス
即チ有價加工

有價保監

有價加工

驛遞長

有價ノ運搬

旅人宿

海運

普通運業者

陸運

余ハ今本編ノ講義ヲ了セントスルニ臨ミ尙一言スヘキコトアリ近頃
米國法律家スグーラ、氏ノ著書ヲ觀ルニ動產委託ヲ分ツテ有價無價
ノ二大部トナシ之ヲ以テ萬般ノ委託ヲ網羅セリ此レ最モ簡單ナル類

朝八時頃仕事場ニ出テ先ツ喫煙シテ多少ノ時ヲ費シ僅ニ仕事ニ着手スルヤ十時比トナレハ又喫煙シテ二三分ヲ費ヤシ十二時トナレハ午飯ヲ喫シ次テ喫煙シ夏時ナレハ一睡シテ二時後ニ至リ仕事ニ掛ル三時後ニ至レハ又茶ヲ飲ミ喫煙ヲナシ五時比ニ至レハ去ル蓋シ一日中實際勞力ヲナス僅々五六時間ニ過キサルヘシ如此キ勞力ノ有様ニテハ其効驗ノ大ナランコトヲ望ムモ決シテ得ヘカラサルナリ人間固有ノ性質ニ依リテ勞働力ヲ異ニスルモノニシテ一チ國性トシ一チ人性トス「アングロサクソン」人種ハ筋骨ノ勞働力非常ニ強壯ニシテ世界無比ト稱ス故ニ英人ノ勞力者一人ノ勞力ハ佛國勞力者ノ二人魯西亞國勞力者ノ三人ニ相當スト云ヘリ又ヘレスポンド海岸ニ農業ヲ爲ス英國人ハ土耳其ノ勞力者ニ一ケ年三「ポンド」ヲ拂ハンヨリ寧ロ希臘ノ勞力者ニ十「ポンド」ヲ拂フナ利トスト云フ皆是國性ニ由リテ勞

働カチ異ニスルモノナリ其然ル所以ノモノハ一ハ人種ニ天性ノ差異
 アルト一ハ勞力者生活ノ形狀ヲ異ニスルトニ在ルヘシ歐洲ノ俚諺ニ
 「イングリシ、イノルヂ」「ゼルマン、インテリゼンス」「フレンチ、テースト」ト
 稱シ英國人ハ体力ニ強ク日耳曼人ハ智力ニ富ミ佛國人ハ意匠ニ秀ス
 ルヲ以テ各其擢ンテタル性質トス故ニ英人ハ農業坑山及製造所等ニ
 使用スルニ適シ獨乙人ハ智識學問ニ長スルヲ以テ事物ノ原理ヲ發見
 スルコト多ク佛國人ハ衣服裝飾等時ノ流行ヲ工夫スルニ巧ミナルヲ
 以テ歐洲ノ流行ハ多ク巴黎ヨリ始マル又蘇蘭士人ハ謹直ノ性質ナル
 ニ由リ銀行家ニ適シ伊太利人ハ伶俐ナルヲ以テ商家番頭手代等ニ適
 ス右ノ如ク人種ニ依リ天性ニ差異アルヲ以テ之ヲ見レハ勞働力ニモ
 自ラ差異ナカルヘカラス嘗テ合衆國南北戰爭ノ時陣中ニテ物体ヲ舉
 グル腕力ヲ調査シタルニ左ノ結果ヲ得タリ

白人ノ兵士 三百十四斤乃至三百四十三斤
 白人ノ水兵 三百七斤
 學生 三百八斤
 黑人 三百二十三斤
 黑白交生人 三百四十八斤
 土人 四百十九斤
 然ルニ腕力ノ多少ヲ以テ直ニ其勞働力如何ヲ決スルヲ得ヘキモノニ
 非ス腕力ハ身體ノ巨大ナルモノニ多ク存シ矮小ナルモノニ少キハ通
 常ナレトモ勞働力ハ必シモ腕力ニ由テ其優劣ヲ決スルヲ得ヘカラサ
 レハナリ例エハ梅ヶ谷ハ力士ヲ專務トスルモノユヘ腕力ハ定メテ多
 キニ相違ナシト雖モ勞働力ハ必シモ多シト云フヘカラス勿論他ノ事
 カ同一ナレハ腕力ノ強キ者ハ最モ多ク体力上ノ勞働力ヲ有スヘキ理

ナレトモ其身体健全ナラサレハ勞働力少ナカルヘク又怠惰ノ人民ナ
レハ勞働力少ナカルヘシ鬼ヲ欺ク大達ヤ梅々谷モ病氣ナレハ如何ト
モスル能ハス四百十九斤ヲ舉クル亞米利加ノ土人ト雖モ只日子ヲ徒
消スルヲ知リテ勞力ニ就カサレハ其腕力モ効ナカルヘキヲ以テナリ
開明ノ程度社會ノ形情ニ依リ勞力者ヲ賤視スルカ爲メニ勞力者ノ給
與薄クシテ其生活ノ有様ノ非常ニ賤惡ナルトキハ勞力者ハ決シテ天
性ノ勞働力ヲ發達スルコト能ハサルヘシ嘗テ佛國ニテ經驗シタル所
ニ據レハ佛國ノ勞力者ハ英國ノ勞力者ニ及ハストスレトモ是レ佛國
ノ勞力者ハ食物ノ粗惡ナルカ爲メニ英國勞力者ニ及ハサル者ニテ佛
國ノ勞力者ト雖モ英國勞力者ト同一ノ食物ヲ與フレハ決シテ優劣ナ
シト云ヘリ果シテ然ルヤ否ヤハ知ラサレトモ食物ノ良否ニ由リテ勞
働力ニ差異ヲ生スルコトハ決シテ疑フ可ラサルナリ余嘗テ一老農ノ言

ヲ聞クニ農業勞力者ヲ使役スルニ一日間ニ一回ハ味噌汁ヲ與フルト
キハ單ニ香ノ物ノミヲ與フルトキヨリ余程利益アリト云ヘリ若シ此
勞力者ニ東京通常人ノ食スル食物ヲ與ヘハ定メテ一層勞力ヲ増スナ
ラン是レハ簡單ナル一場ノ茶話ナレトモ甚ダ其理アルカ如ク考フル
ナリアダムスミス氏嘗テ云ヘルコトアリ曰ク勞銀ノ供給十分ナルト
否トニ由リテ大ニ勞働ノ効驗ヲ異ニスヘク下民ニ在リテハ給與ノ惡
シキ割合ニ勞働ノ足ラサルモノナリ云々ト勿論給料ノ二割低キモノ
ハ勞働モ亦二割丈足ラスト云フカ如ク比例スルモノニアラスト雖モ
下等ノ勞力者ニ至リテハ給料ノ少ナケレハ其勞働ハ幾分カ少ナキニ
ハ相違ナシブラツセー氏ハ鐵道ノ敷設請負ヲナシ實際種々ノ外國人
ヲ使役シタル人ナルカ其經驗說ニ據レハ勞銀低キ國ニテハ勞力ノ生
産力小ニ勞銀高キ國ニテハ其生産力大ナリト云ヘリ現ニ獨逸メクレ

シホルグノ日傭勞力者ハ撒遜チユリンゲルノ勞力者ニ比シテ食物ノ
 量ハ殆ント倍スレトモ其勞働スルコトモ亦殆ント之ニ倍スト云フテ
 以テ之ヲ見レハ勞力者ノ給與ヲ十分ニスルハ却テ利タルヘキハ疑ヲ
 容レサルナリニ至リテハ餘利ハ地大ニシテハ其勞働ハ撒遜チユリン
 人性ニ依リテ勞働力ヲ異ニスルトハ人間男女ノ違年齢ノ差是ナリ凡
 ソ男ハ強ク女ハ弱キハ萬國普通ノ理ニシテ開明ノ進歩シタル程男女
 ノ差違甚シ其譯ハ未開國ニ於テハ勞力者ヲ賤ムヨリ自然弱キモノハ
 強キモノニ使役セラレテ以テ女子ノ勞働スルコト甚タシキモノトス
 現ニ沖繩ノ如キ男ハ内ニ坐シテ喫煙シ女ハ店ニアリテ外人ト賣買取
 引ヲナスト云フ是レ蠻野ノ餘臭ノ尙存スルモノナルヘシ事實如此ク
 ナレハ女子勞働自ラ激烈ナルヘキヲ以テ腕力モ自ラ發達スヘキナリ
 蓋シ又人間ノ最モ盛ナル年齢ハ男女共ニ三十歳前後トス而シテ開

民國ニ於テハ男女三十歳ニシテ腕力ノ差ハ九ト五トノ割合ナリト云
フ勿論婦人ニシテ力ノ強キ巴御前板額ノ如キアリ男子ニシテ巴御前
ニ組敷カル、モノモアレトモ之ヲ平均スルトキハ右ノ如キ差異アル
モノナリ加之ナラス女子ハ勞働スレハトテ毎月休息セサルヘカラサ
ル日アリ産兒ノ役アリ育兒ノ職アリテ勞働ヲ爲シ難キ時間多シ故ニ
其勞働力ハ遙ニ男子ニ及ハサルモノトス左レハ男女ノ人口其比例ヲ
得スシテ女子多ク男子少ナケレハ國ノ生産力ヲ失フコト大ナルヘシ
已ニ腕力ニ於テ女子ハ遙ニ男子ニ及ハス加フルニ女子ハ年中勞力ニ
就クヲ得ヘキ時少キヲ以テ之ヲ見レハ女子ノ勞働力ハ如何ニ大ナル
モ蓋シ二人ヲ以テ男子一人ニ當ルヨリ大ナルコトハナカルヘシ由是
觀之ハ女子ノ多キニ過クルハ豈ニ國家ノ利タランヤ
又年齢ニ由リテ勞働力ニ大差ヲ生スヘシ人間ハ生レナカラニシテ直

チニ勞カスルヲ得ヘキニアラス金時ト雖モ生誕ノ日斧ヲ振廻シタル
 ニアラス皆幼少ノ時ハ筋骨未タ發達セス又老テハ筋骨已ニ衰フヲ以
 テ勞カニ堪ユル能ハス故ニ人間ノ花盛リトモ云フヘクシテ最モ勞働
 ニ堪ユルハ壯年ノ時ニアリ蓋シ男子ハ二十五歳ヨリ四十五歳マテヲ
 以テ通例最モ盛ナル時トス其勞働力ノ最モ大ナルハ此時ニアリ我
 邦ニテハ人間ノ生長少シク早キ故カ普通廿歳ヨリ四十歳マテヲ以テ
 最壯ノ年齢トナスカ如シ故ニ四十歳ヲ初老ト稱シ人間ハ此時ヨリ衰
 エ初ムルモノトセリ土地ノ氣候ニ依リテ少々差異ハアレトモ二十歳
 以上四十五歳以下ノ間ハ人間ノ最モ強壯ニシテ最モ勞働ニ堪ユル時
 ナルニ相違ナシ日耳曼ニ於テ嘗テ勞力者カ疾病ノ爲メニ勞働スル能
 ハサル日數ヲ調査シタルヲ見ルニ左ノ如シ
 十五歳ヨリ十九歳マテ 七日十分ノ二

二十五歳ヨリ二十九歳マテ 九日十分ノ三

三十歳ヨリ三十四歳マテ 七日十分ノ五

三十五歳ヨリ三十九歳マテ 七日十分ノ八

四十歳ヨリ四十四歳マテ 八日十分ノ三

四十五歳ヨリ四十九歳マテ 十一日十分ノ六

五十歳ヨリ五十九歳マテ 十四日十分ノ一

右ハフエンゲル氏ノ調査ニ係ル又ヴイラルメー氏ノ調査ニ據レハ六

十歳以上ノ疾病日數ハ左ノ如シ

六十歳ニテ 十六日 六十七歳ニテ 四十二日

六十五歳ニテ 三十一日 七十歳ニテ 七十五日

此表ニ依ルモ二十五歳ヨリ四十五歳位マテノ間ハ最モ疾病少シ斯ク
身体強壯ナレハ氣力モ亦旺盛ナルヘク人間ノ勞働チナスコトノ最モ

盛ンナル時ナルヲ見ルヘシ故ニ國ニ二十歳以上四十五歳以下ノ人民多ケレハ人口ノ割合ニ其國ノ勞働力ハ他ノ事カ同シケレハ大ナルヘキヲ以テ經濟上利アルモノトス左レハ歐州大陸諸國ニ於テ今日ノ如ク國ノ壯丁ヲ驅リテ巨万ノ常備軍ヲ養フカ如キハ大ニ國家ノ產生力ヲ減スルモノニシテ止ムヲ得サルコトハ云ヒナカラ經濟上ニ於テハ爲メニ大損失ヲ免レサルモノトス若シ此輩ヲシテ或ハ農業ニ或ハ工業ニ就カシメハ直接ニ其國ノ生産ヲ増スコトヲ得ヘキヤ決シテ疑ヲ容レサルナリ

習テ述ヘタル如ク勞力ハ生産ノ必要物ナレトモ如何ナル勞力ニテモ生産ヲナスモノトハ云ヒ難シ故ニ勞力ヲ分チテ生産勞力不生産勞力トナス生産勞力トハ有用ノ勞力ニシテ貨物ノ需用ニ關シ社會ニ功益ヲ與

二十五年四月二十日

資本

夫レ生産ヲナスニハ勞力ヲ要セサルコトナシト雖モ資本ハ必シモ之ヲ要セサルコトアリ例ヘハ徒手ニシテ山中ノ木實ヲ集メ沼邊ノ野芹ヲ探ルカ如キ之ナリ如此キ簡單ナル生産ト雖モ木實ヲ集ムルニ袋ヲ用ヒ野芹ヲ探ルニ籠ヲ携フレハ此袋及籠ハ即チ資本ナリ故ニ開明國ノ生産ニ於テハ資本ヲ要セサルハナク資本ナケレハ生産大ニ發達スルヲ得ス生産發達スルニ從ツテ資本ノ用益々大ナリトス請フ今ヨリ資本ノ性質ヲ論セシ

資本トハ過去ノ勞力ノ結果ニシテ將來ノ生産ニ使用スルカ爲メニ貯蓄シタルモノヲ云フ元來資本ハ貨物ノ使用上ヨリ定マルモノニシテ貨物固有ノ性質ニアラス故ニ生産ニ使用スルニアラサレハ資本トナル一ノ貨物モ資本タルヲ得ス而シテ又過去ノ勞力ヨリ生シタル貨物

ヲ貯フルニアラサレハ資本ヲ得ル能ハス試ニ渾沌タル天地間ニ人間
カ新タニ生出シタル有様ヲ想像セヨ其食ヲ得ルニ漁獵セン方漁網弓
矢ノ用ユヘキモノアルニアラス漁網弓矢ヲ製センカ其製造成ルニ至
ルマテ何ニ依テ生活セン只一身ニ屬スルモノハ四肢ノ以テ用ユヘキ
アルノミ故ニ先ツ其四肢ノ勞働ニ依テ食ヲ得サルヘカラス此ニ於テ
水中ニ魚アルヲ見テ四肢ノ作用ヲ以テ僅ニ毎日三尾ノ魚ヲ手獲スル
ヲ得タリトセン然レトモ此方法ニ依テ生産スルトキハ單ニ天然物ニ
勞力ヲ加フルニ過キサルヲ以テ生産甚タ難ク日々ノ食ヲ得ルノ外他
ニ需用ヲ満足スルヲ得サルヘシ此際若シ奮發シテ只食欲ヲ満足スル
ヲ事トセス毎日捕フ所ノ魚ハ其二尾ヲ食トシ少シク空腹ナルヲ辛抱
シテ一尾ヲ貯蓄セハ十日ニシテ十尾ヲ得ヘシ然ルトキハ後五日間ノ
捕魚ニ從事セスシテ漁網ヲ製スルモ敢テ餓死スルコトナカルヘシ是

レ已ニ魚十尾ノ資本アレハナリ漁網成ル後ハ一日ニ數十尾ヲ得ヘキ
ヲ以テ衣服モ製スルコトヲ得ヘク住居モ造ルコトヲ得ヘキナリ尙一
歩ヲ進ミ己ニ諸多ノ資本アリテ農業ノ行ナハル時代トナレハ如何ナ
ル有様ニ資本ヲ増加スルヤヲ見ン今一農夫アリ百俵ノ米ヲ生産シタ
リトセハ此百俵ハ次年ノ收穫マテ我衣食ニ供シ次回ノ種子ニ供シテ
尙餘リアルヘシ假ニ其餘米五十俵アリ之ヲ以テ更ニ田地壹町ヲ買入
レ勞力者ヲ傭フテ耕作シ又三十俵ノ收穫ヲ得ハ以後毎年百三十俵ヲ
生産スルニ至ルヘシ之ニ反シテ若シ農夫カ餘米五十俵ヲ賣テ酒食ノ
用ニ供セハ一時ノ快樂ヲ得タルニ過キス我資産ヲ増加スル能ハサル
ノミナラス五十俵ノ代リハ世ニ生産セラレスシテ酒食ト消失スヘシ
由是觀之ハ目前ノ快樂ヲ忍ヒ辛抱シテ貯蓄ヲナスニアラサレハ資本
ヲ生スルヲ得ス又之ヲ増加スルヲ得サルナリ

- 資本ハ左ノ貨物ヲ以テ成ルモノトス
- 第一 土地改良ノ結果 (Soil improvement.)
 - 第二 建築物 (Building.)
 - 第三 器具機械器物 (Tool, machine, utensil.)
 - 第四 勞働ニ使用スル動物 (Useful and laboring animal.)
 - 第五 製造素品 (Materials for transformation.)
 - 第六 補助物品 (Auxiliary substance.)
 - 第七 生活用品 (Means of subsistence.)
 - 第八 貿易品 (Commercial stock.)
 - 第九 貨幣 (Money.)
 - 第十 無形資本 (Incorporial capital.)
- 第一 土地改良ノ結果トハ「ソイル、インプル」がメント」トテ或ハ疏水シ

テ沼地ヲ變シテ田地トナシ或ハ灌水法ヲ施シテ原野ヲ以テ耕地トナシ或ハ隄防ヲ築テ水害ヲ防キ或ハ牆圍ヲ結ンテ耕地ヲ保護スルカ如キヲ云フモノニシテ其改良シタル結果ハ皆生産ノ資本トナルヘキモノトス第二建築物ハ工場倉庫居宅ノ如キ鐵道堀割馬車道ノ如キモノニシテ製造ヲナスニハ工場ナカルヘカラス物品ヲ保藏スルニハ倉庫ナカルヘカラス生産者ノ住居ニ家宅ナカルヘカラス貨物ノ運輸ニ鐵道堀割馬車道ノ便ヲ要スルモノニシテ皆生産ヲ資クヘキモノトス第三器具ハ刀鋸斧鉞ノ如キ勞力者ノ手ヲ以テ使用スルモノヲ云ヒ機械ハ水車風車蒸氣機械ノ作用ニ據リテ運轉シ勞力者ハ只其運轉ヲ補助指揮スル所ノモノヲ云ヒ器物ハ家具厨具船車ノ如キ一身ノ需用ニ供スルモノ又ハ貨物ノ貯蓄運搬ノ用ニ供スルモノヲ云フ第四勞働ニ使用スル動物トハ人力ヲ以テ繁殖畜養シ生産ノ爲メニ使用スル所ノモ

八九ハ皆ナ存スルモノナリ即チ普通存在スルノ事實ニシテ反對ノ證アルニアラサレハ法律ハ之レカ存在ヲ推測スルモノナリ例セハ羅馬法ニテ代價ノ仕拂アラサル前ハ賣リタル物品ノ所有權買主ニ移轉セサルモノト推測スルノ類ナリ

第三、偶素、偶素トハ通常存在セサルモノニシテ唯稀ニ見ル所ノモノナリ即チ通素ノ反對ト云フモ可ナリ故ニ其存在ヲ推測セス之ヲ以テ若シ其存在ヲ主張スルモノアルトキハ之レカ證明ヲ要スルモノナリ

第三編 希圖、不注意及惡意ヲ論ス

希圖ノ何タルコトハ前段所爲ノコトヲ講述セシ時既ニ陳セリ不注意及ヒ惡意ノ二者ハ其字面ニ由リテ畧ホ明ナレトモ猶此ニ一言ス可キモノアリ

元來希圖、不注意、惡意ノ三者ハ皆精神ノ有様ニシテ内部ノ働キニ屬ス

ルモノナリ然レトモ法律ハ人ノ内部ヲ見ルヘカラサルカ故ニ之ヲ外面ノ所爲ニ由リテ判斷スルコトナリ即チ法律上ハ外面ニ現ハル、所ノ形体ニ基キ希圖、不注意、惡意ヲ定ムト雖モ此形体タル千差萬別ナルヲ以テ豫メ定義ヲ下シ難シ而シテ希圖、不注意及ヒ惡意ノ三者ハ共ニ精神ノ作用ヲ以テ論スルヲ便ナリトス然リ而シテ人ノ喜怒哀樂ハ内部ノ働キト雖モ皆外面ニ現ハル、モノナレハ外形ニ由リテ其心中ヲ探ル敢テ難キニアラサルト同様ニ希圖、惡意ノ如キモ心意ノ有様トナシナカラ尙外面ノ所爲ヨリ之ヲ斷定スルモ敢テ不都合ト云フヘカラス昔者池上ニ立テ魚ノ洋々焉トシテ游泳スルヲ見テ樂哉魚ノ躍ル也ト嘆シタルモノアリシ傍人云ヘテク汝ハ魚ニ非ラス焉ソ能ク魚ノ樂ムヲ知ラン哉ト然ルニ其人答テ曰ク汝ハ我ニ非ラス何ヲ以テ余カ魚ノ樂ムヲ知ラサルヲ知ランヤト云ヒシコトアリト莊子ニ見ヘタリ

其人々ノ心中ハ計リ知ル可カラスト雖モ是レ唯寓言ニ過キス其外部ニ現ハレシ様子ヲ見テ意中ヲ推ス敢テ誤ルモノ多シトナサ、ルナリ

第一 希圖

希圖ニハ善惡ノ二種アリ而シテ刑法上ニ於テ罰スル所ノモノハ其惡ナル場合ナレトモ民事上ニチイテハ其善ナルモノト雖モ制裁ヲ免レサルコトアリ例セハ其隣人ノ山林ナルコトヲ知リテ伐採シタル時ニハ其希圖ハ惡ナルカ故ニ山林盜伐ノ刑ヲ受ケサル可カラス然レトモ自己ノ山林ナリト誤認シテ伐採セシ場合ノ如キハ其希圖善ナルヲ以テ刑法上ノ制裁ヲ受ケサルモ民事上ノ損害ハ之ヲ賠償セサル可カラズ

凡ソ法律ニ觸ル、所ノ所爲ニ付テハ其意惡ナルトキハ刑法上ノ制裁ヲ受ケ善ナルトキハ民事上ノ制裁ヲ受クルモノトシテ差岡ナシ尤モ

此原則ニ對シ多少ノ例外アリト雖モ先ツ大体ハ右ニ述ヘタルカ如シ而シテ日本刑法ニ定ムル過失殺傷罪ノ如キハ則チ例外ナリ然レトモ所爲アレハ必ス希圖アリトス可カラス又希圖ノ所爲ニ隨伴スルトキニ於テモ其程度ニ自ラ多少輕重ノ別アリ即チ希圖ノ多分ニアルトキト少キトキト毫モ無キ場合トアリ蓋精神爽快ナルモノカ充分ニ思慮ヲ運ラシタルノ所爲ニハ充分ノ希圖アレトモ愚者或ハ輕躁者ノ如キ者ノ所爲ニハ幾分ノ思慮アルモ充分ノ希圖ナキ場合ナキニアラス而シテ幼者、癡癲人ノ如キニ至リテハ更ニ何等ノ希圖ヲモ有セサル者アリ又此希圖ノ大小輕重ニ由リ其名稱ヲ異ニセリ乃チ次項ニ述ルカ如シ

第二 不注意

此ニ一ノ所爲アリ其結果クルヤ希圖ノ外ニ出テ全ク案外ニシテ通常

不注意

¹²Headlessness

Accident

[#]Negligence

人ノ豫想シ得サルモノナルコトアリ之ヲ偶然ノ結果ト云フ而シテ若シ通常人ナラハ豫想ス可キ結果ナルヲ其者ノ不覺怠慢ニヨリ之ヲ豫期スヘキニ豫期セサルトキニハ之ヲ稱シテ不注意ト云フ法律上不注意ヲ區別シテ名稱ヲ異ニセリ若シ爲ス可キコトヲ不注意ニテ爲サ、ルトキニハ之ヲ懈怠ト云ヒ英語ニテネグリゼンスト云フ又爲ス可カラサルコトヲ不注意ニテ爲シタルヲ疎虞ト云ヒ英語ニテ¹²ヒドレズネスト云フ此懈怠及ヒ疎虞ハ我等ノ正サニ充分ノ思慮ヲ運ラサ、ルニ起因スルモノニシテ所謂不注意ナリ約言スレハ懈怠疎虞ノ二者ハ相當ト云フ尺度ニ中ラサルモノナリ其又相當ナリヤ否ノ問題ハ或ハ事實ノ問題トセラレ或ハ法律ノ問題トセラル、コトアルハ既ニ述ヘタルカ如シ相當不相當ノコトニ付テハ別ニ茲ニ言フ可キコトナケレトモ法律ノ

上ニテ相當不相當ト云フコトハ通常云フ所ノ相當不相當ナルモノト
ノ間ニ區別アリヤ如何曰ク通常云フ所ノ相當不相當トハ十目ノ見ル
所、十手ノ指ス所ニシテ法律ニ關係ナキモノナリ即チ法律ナキモ自カ
ラ相當不相當ト云フコトハアルヘキ筈ナリ而シテ法律ノ上ニテ云フ
所ノ相當不相當トハ實ハ區別ナキ筈ナレトモ今日法律社會ニ於テハ
多少其區別ヲナセリ即チ法律上ニ於テ云フ所ノ相當不相當ハ事柄ニ
ヨリ通常人ノ思想ヨリハ嚴格或ハ寛大ナルコトアリ言ヒ換ユレハ法
律ハ通例ノ云フ所ニ外レテ其注意ヲ高クシ又抵タセルコトアリ
相當不相當ノ所爲ヲ見ルニハ審判上ノ事實之ニ合格ス而シテ或ル所
爲ハ相當ナリヤ又ハ不相當ナリヤテ決スルニハ吾人ノ身分職業位地
等ニ由リテ差等アリ即チ素人ヨリ専門家ハ其責重シ例ヘハ素人カ病
者ニ藥ヲ與ヘテ誤ルト醫者ノ病者ニ藥ヲ與ヘテ誤ルトハ其責任ノ度

二大ナル差異ヲ生スルモノトス又船長ノ如キ鐵道機關士ノ如キ通常人ノ注意ヲ以テ注意アリシモノトナスコト能ハス此等ノ人ハ通常人ヨリ猶一層ノ注意ヲ用ヒサレハ以テ其責ヲ免カル、コト能ハス例ヘハ京濱間ノ瀛車途ニ顛覆セルトキハ其機關士タル者余ハ通常人ノ用キル程ノ相當ノ注意ハ盡シタリト云フモ其責任ヲ免カル、コト能ハサルカ如シ又代言人ノ如キ皆然リ又特別ノ場合ヲ掲ケントスルニハ是レ日モ亦足ラサルコトナルカ法律ハ特別ニ身分職業地位等ニ由リテ一層嚴格ナル注意ヲ求メ之ヲ欲クトキハ以テ其人ニ注意アルモノトス右ノ如ク相當不相當ヲ定ムルニハ其人ノ地位身分職業等ニ由ルノミナラス亦時ト場所トニ由リテ區別セサル可カラス即チ大川端ニ烟火ヲ舉クルハ不注意ニアラサレトモ人家稠密ノ場所ニ於テハ不注意ノ所爲ナリトス又公園地ノ如キ常ニ人通りノ繁多ナラサル所ニ於

テ大手ヲ振り廻ハスハ不注意ニ非サレトモ鳥ノ市ノ如キ人込ノ場所ニ於テ手ヲ振りテ往來ヲ妨ケ遂ニ人ヲ打ツニ至リタル所爲ノ如キハ之ヲ不注意ナリト云ハサルヘカラス寂寞ナル大道ニ極メテ幼少ナル子供ヲ遊ハシムルハ敢テ不注意ト云フヘカラサレトモ銀坐通りノ如キ肩摩輟擊通行多キ所ニ於テ守リナクシテ子供ヲ遊ハシムルカ如キハ極メテ危険ニシテ不注意ト云ハサルヘカラス

扱テ以上ニ陳ヘタルカ如ク凡テ思量ノ有無ハ義務ノ有無ニ關スルモノナルカ故ニ少シ奇ナルコトナレトモ茲ニ必ス起生ス可キ疑問ハ吾人ニ相當ノ智識ヲ有ス可キノ義務アリヤ否ヤ是ナリ斯ク云ヘハ漠然トシテ解シ難キ問ニ似タレトモ裁判上法律ハ國民一般ニ於テ知り居ルモノト推測スル原則アルト同様ニ或ル簡易ナル事實ハ國民普通ノ智識ヲ有スル者ニ於テ必ス知り居ルモノト推測スル原理アルヤ否ヤ

者一人宛ノ場合ナレハ義務解除ノ効果ヲ有スト雖モ數人ノ連帶義務者アル場合ニ於テ其中ノ一人ニ對シテ履行ノ訴ヲ爲サルヘシト契約スルモ唯契約者相互ノ間ノミニ効アリテ他ノ者ニ及ハサルモノトス是其釋放ト異ナル效果ナリトス又外面釋放ヲ爲スト雖モ其意唯釋放ヲ受クル一人ニノミ其利益ヲ與フル爲ニメシテ時ニ他ト共ニ履行ノ訴ヲ受クルノ妨害トナラサル趣旨ヲ以テ一人ニ對シテ釋放スルトキノ如キハ義務者全部ニ向ヒ釋放ノ効果ヲ有セサルハ勿論ナルヘシ例ヘハ甲乙二人ノ組員原告人ニ負債アルトキ組員ノ一人甲多少ノ入金ヲナシテ原告人ト以後己レ一人丈々ハ請求ヲ受ケサルコトニ契約セリ此契約ニハ乙立會ハス但契約ノ趣旨ハ左ノ條項ヲ明認セリ第一此契約ハ乙ノミニ對スル原告人ノ訴權、甲乙二人ヲ共ニ相手取ル原告人ノ權理、甲乙共同ノ財産ニ對ス

ル原告人ノ訴權ヲ消滅セサルヘシト此場合ニ於テ右ノ契約ハ原告人
カ甲乙二人ニ對シ組合ノ負債ヲ訴求スルノ妨害トナルコトナカルヘ
キナリ

第十四回

(第三) 負債主并抵當物件ノ更改
負債主并ニ抵當物件ノ更改モ義務消散ノ一原因トナルモノナリ則チ
已ニ成立スル連帶責任ヲ他種ノ責任ト更改スルヨリシテ其連帶責任
ヲ消散セシムルナリ此場合ヲ分テ二トス
第一 權利者義務者間ノ契約ヲ以テ更改スルコト
第二 以上ノ契約ニ拘ハラス併滅ノ原理ニ由リテ更改スルコト
先其第一ノ場合ヨリ論セン

義務者ノ
更替ニ依
リ義務ノ
消滅

組合員間
ノ約束ハ
債主ニ對
シ效力ナ
シ

一般ニ論スレハ一ノ責任ヲ負フ者之ヲ他ノ義務ト置キ換ユルニハ其
約束ニハ必ス權利者立チ入り自ラ約諾セサル可カラス例ヘハ此ニ甲
乙丙ノ三人アリ 乙債主、甲負債 甲ハ其百圓ノ義務ヲ丙ニ讓渡サントス
時ニ甲ト丙トノ間ニ於テハ充分其約束ノ成リシモ權利者タル其乙ノ
相談ニ立チ入ラサルトキハ乙ニ向ヒテハ何等ノ效果ヲモ生セサルヲ
以テ矢張乙ハ甲ニ對シテ従前ノ義務ヲ強テ盡サシムルコトヲ得ルモ
ノトス然レトモ若シ乙ノ甲丙ノ間約束ニ立チ入りテ己レモ之ヲ約諾
セルトキハ其レヨリ甲ノ義務ハ丙ニ移リ以後丙ハ乙ニ對シテ義務ヲ
負フコトニ立チ至ル可シ要スルニ義務者ノ其義務ヲ他ニ讓渡ス場合
ニハ權利者之ヲ約諾セサル可カラズ然ラサレハ其讓渡ノ效ナキモノ
トス 甲ノ義務ヲ丙ニ讓渡スルニ依リテ甲ノ義務ハ消滅スルコトナシ
又一例ヲ掲ケンニ甲乙丙三人ノ組合アリ其中甲ハ脱社セシヲ以テ乙

丙ハ甲ノ義務ヲ引請ケ引續キ其業ヲ營ムカ又ハ戊ハ甲ノ代リニ入社シテ甲ノ義務ヲ引請ケント約シ組合ノ事務ヲ取扱ヒシトスルモ其事タル債主ナル丁カ之ヲ承諾シ居ルモノナラサル可カラス否ラサレハ其約束ハ債主ニ向テハ何等ノ放力ヲモ生スルコトナキモノトス乃チ甲ハ従前ノ如ク其義務ヲ負ヒ丁ハ甲ニ係リテ訴求スルコト隨意ナリトス然レトモ權利者タル丁ハ之ヲ約諾シタルトキハ從來義務者ノ一人タル甲ニ係リテ訴ヲ起スコト能ハサルモノトス是ヲ以テ凡テ組合員ノ一人脱社スルコトアルトキハ何時モ此議論ヲ生スルモノナレハ宜シク豫メ確定シ置ク可キナリ若シモ債主ハ退社員ノ義務ヲ免シ之ニ換フルニ新組合ノ責任ヲ得ント特ニ約諾スルトキハ其脱社員ハ此ニ義務ヲ解キ再ヒ債主ノ爲メニ訴求サル、コトナキモノトス

商社ノ創立規則杯ニ株主タルモノ、義務ハ株券ヲ他へ讓渡スヲ以テ

新組
夏替ニ
美善
聯合員
債主
債主
債主

株券ノ移
轉ニ依リ
義務ヲ免
スルハ能ハ

債主カ脱
員者ヲ免
除シタリ
ト云フ法
律ノ推定
ナシ

消滅スルモノ、如ク規定シアルモノ往々之レアレトモ設ヒ社則ニ株
主ノ責任ハ有限ナリト規定スルモ政府ノ特許ヲ得サレハ社外ニ向テ
其効果ナキト一般社外ノ債主ニ向テハ何等ノ効顯モナキモノナリ之
ヲ法律語ニテ言ヘハ組合ハ解散スルコトヲ得而シテ其解散ハ未來ノ
事柄ノミニ關シ過古ノ事柄ニ關セス他言スレハ是ヨリ爲スコトニ付
テハ解散ノ效力ヲ保ツト雖モ既ニ爲シタル事柄ニ付テハ其責任ヲ完
結スルマテハ事務繼續シテ解散セサルモノトス
義務者更改ノコトハ權利者ノ約諾ヲ要スルト云フ原則ノ適用ニ付テ
三箇ノ條件アリ

第一條件

組合ノ一人脱員スルコトアルモ唯其一事ヲ以テ
權利者ハ其脱員者ノ義務ヲ免セシモノト推定ス
ルヲ得ス義務ヲ免スルニ付テハ必ス權利者ノ約

債主カ殘
組合員ノ
ミナ以テ
義務者ト
ナサント
有効ナリ

組合員ノ
一人ヲ釋
放スレハ
其効果全
部ニ及ブ

第二條件

諾アリシコトノ證據ナカル可カラズ

數人ノ連帶義務者ヲ有スル權利者(即チ組合ノ債主ノ如キ)カ其連帶義務者ノ一人ヲ免除シ殘義務者ヨリ義務ヲ得ンコトヲ約諾スルトキ其約諾ハ無原因ノ故ヲ以テ無効トナスヲ得ス

英國契約法ニ於テハ契約ニハ必ス原因ナルモノヲ要スルコトナルニ
今債主ハ故ナク數人ノ中一人ヲ免除シテ殘者ノミニ係ルコト、スレ
ハ無原因ノ契約ナルカ如シ然ルニ此權利者ノ約諾ハ之ヲ無原因ナリ
トシテ其約束ヲ無効トスルニ及ハサルコトヲ云フタルモノナリ
第三條件 殊別ノ情況アルニアラサレハ組合員ノ一人ヲ免
除シタル時ハ從テ組合全部免除ノ結果ヲ來タス
故ニ若シ債主組合員ノ脱スルモノニ對シテ其義務ヲ免除シタルノミ

ニテ更ニ從來ノ義務ハ之ヲ新組合即チ殘組合ニ求ムルカ又ハ殘組合ト共ニ交代組合員ニ對シテ求メサルトキハ債主ハ遂ニ全ク權利ヲ失フニ至ル故ニ債主ニ於テ退社員ノ義務ヲ釋放セシヤ否ヲ見ルニ付テハ先債主ハ新組合ニ對シテ從來ノ義務ヲ負ハシタルコトニ着手セシヤ否ヲ觀察スルヲ必要トス是レ債主ハ故ナク全ク自己ノ有スル權利ヲ放棄セシモノト看做シ得ヘカラサレハナリ

以上ハ原則ヲ示シ併セテ之レニ説明ヲ與ヘタルモノナリ以下退社員ノ義務ヲ釋放セラレシト否ヲサルトノ場合ヲ二項ニ分チ之ヲ論述ス可シ

〔第二〕 退社員ノ解放セラレサル場合

其一 交代組合員ノ無カリシ時

其二 交代組合員ノ有リタル時

判例

〔第二〕 退社員ノ解放セラレタル場合

其一 交代組合員ノナカリシトキ

組合員ノ一人退社シ而シテ其者ニ付テハ債主ノ解放ナク又新入組合員ノアラサル場合ニハ古キ判決例ニ由レハ一人退キシ後ニ新ニ交代スル人ナケレハ解放アル可キ筈ナシ即チ退社員ニ代リ義務ヲ負フヘキモノナキニ唯故ナク退社員ノ義務ヲ免スルト云フコトハアル可キ理ナク是レ無原因ノ約諾ナレハ從テ裁判所ニ於テハ、設ヒ解放アルモ其效ナキモノトセリ然レトモ畢竟義務解放ノ如何ハ證據法上ノコトニ關スルモノニシテ強チ新入組合員ノナキ場合ハ釋放ノ効ナキモノトナスヲ得サルヘシ左レハ近時ノ判決例ヲ視ルニ甲乙二人組合ヲナシ丙ヨリ金ヲ借り入レ之ヲ返サ、ル中ニ甲ハ退社シ其組合ヲ解散セリ然ルニ乙ハ最前ノ義務ヲ悉皆引受クルコト、ナシ其後丙ハ乙ニ向

判例

ニ向ケテ爲替手形ヲ振出シタレトモ乙之レカ支拂ノ資力ナキヲ以テ
此ニ於テ丙ハ更ニ甲乙共ニ相手取りテ訴ヲ起シタリ其告諭ニ曰ク此
場合ニ於テ甲ハ已ニ退社ニ依リ義務ヲ釋放セラレタルヤ否ヤハ全ク
事實ノ問題ニシテ證據ニ依リ決定セラルヘキモノナリ決シテ豫メ法
律上之ヲ推定スルヲ得ストアリ
又債主カ組合員ノ一人退社シタル後殘組合員ノミヲ義務者トシテ取
引シ居リタレハトテ決シテ先キニ退社セシ一人ノ義務ヲ釋放セシモ
ノトナスヲ得ス例ヘハ此ニ組合ノ一人ナル甲某退社シ殘リ乙丙ノ兩
人其義務ヲ負フコト、ナリ而シテ債主ハ是迄五分ノ利息ヲ取り來レ
ルニ以後ハ六分ノ利子ヲ取り居レリ當時ノ判決ニ曰ク此場合ト雖モ
債主ハ明カニ釋放ノコトヲ約諾シタル證據ナキ限りハ甲ヲ釋放セシ
モノト見做スヲ得ス故ニ甲ハ如何ニ退社スルトモ未ダ從前ノ義務ヲ

免カレ得サルモノナリト又殘組合員カ從前ノ負債ニ對シ新ニ債主ヘ
保證物ヲ入レ又ハ證書ヲ差入ル、モ唯此一事ヲ以テ退社員ノ義務ハ
釋放セラレタリト云フコトヲ得ス

其二 交代組合員ノアリシトキ

一人退社シ其代リニ入り來ル者アルトキハ其退社セシ者即時ニ義務
ヲ免レタリト云フコト能ハス義務ノ免否ハ釋放ノ約束ノ有無ニ由リ
テ定ムルモノナリ即チ一人ツ、ノ出入アルトキハ前ノ理ニ由リテ設
ヒ新ニ入り來ル者アレハトテ退社セシ者ノ義務免除シタリト認ムル
コトヲ得ス只此ハ釋放セシナラント云フ強キ證據ニハナレトモ決シ
テ釋放アリシモノトハ見做サ、ルナリ義務ノ釋放アリシモノト認ム
ルニハ債主ノ釋放セシ事實ノ明存スルコトヲ要ス何トナレハ出入員
共ニ協議シテ其義務ヲ換ヘルトモ權利者ノ之ヲ知ラサルモノナレハ

交代員アリ
トテ退社ハ
員ヲ釋放セ
セルモノト
トナスヲ得
ス

其相互間ノ約束ハ債主ノ釋放ノ理由トナラサルナリ此ニ一ノ判決例ヲ舉示センニ

酒造ヲ營業トスル組合アリ常ニ組合員ノ出入アリタリ然ルニ其組合ニ一ノ書記アリ其組合ノ成立以來始終社務ヲ執リ居レリ曾テ金若干圓ヲ該組合ニ貸與シ月々其利息ヲ受取り生計ヲ營ミタリ而シテ其金ヲ貸渡セシ當時ハ三人ノ組合員アリ其後種々ノ出入アリテ既ニ今日ニ至リテハ其三人ノ者ハ夙ニ脫社シ其組合ニ影タモ留メサリシ然ルニ裁判所ハ右ノ三人ニ對シテ今猶其書記ハ貸金ヲ請求スルノ訴權アリト判定セラレタルコトアリシニ

第十五回

此ニ債主ハ新組合ヲ相手取り負債ヲ要求シ得ルヤト云フニ表面ヨリ見レハ稍擬疑ニ亘ル如シ如何トナレハ若シ新組合ヲ訴フルヲ得スト

新組合ニ
對スル訴
權ト舊組
合ニ對ス
ル訴權ハ
併立ス

スレハ新組合ノ責任ヲ以テ舊組合ノ責任ニ更換シ得ヘシトノ原則ニ
抵觸スルカ如ク之ニ反シ若シ訴フルコトヲ得ヘシトスレハ債主カ既
ニ舊組合ニ對スル確然ノ權利ヲ棄テ、容易ク新組合ニ向フテ之ヲ求
ムルノ意思アルヤ否ヤヲ認ムルニ難カル可ケレハナリ然レトモ債主
カ負債主ト協議上更ニ以後ハ新組合ニ對シ其義務ヲ請求ス可ク舊組
合ニ對シテハ請求セサル可シト約スル如キハ法律上毫モ差支ヒナキ
コトニテ新組合ヲ訴フルノ權ト舊組合ニ對スル訴權トハ毫モ抵觸ス
ルコトナカル可シ

〔第二〕 退社員ノ釋放セラレタル場合

其如何ナル場合ヲ問ハス苟モ裁判所ニ於テ事實上及法律上債主ハ舊
組合員ノ義務ヲ實際免除シ其代リニ殘組合員ヲ以後ノ義務者トナシ
タルコトヲ認メ得ヘキニ於テハ此ニ新舊義務ノ更換ヲ生シ退社員ノ

負債併減
ハ義務消
散ノ原由
トナル

義務又ハ舊組合ノ義務ハ全ク消散スルモノナリ例ヘハ此ニ二人ノ組
合アリ物品ノ代金トシテ替爲手形ヲ振出シタル後組合ノ一人脱社シ
手形ハ仕拂期限ニ至ルモ仕拂フコトヲ得サリシ然レトモ殘組合員ノ
一人ハ手形ヲ書キ換ヘ更ニ己レ一人ノ名前ヲ以テ新規手形ヲ差入レ
債主ハ組合ノ一人カ脱社シタルノ事實ヲ知テ之ヲ受領セリ此場合ニ
於テハ債主ハ脱社員ノ義務ヲ釋放シ殘組合員ヲ以テ爾後ノ義務者ト
爲シタルモノト認ムルヲ得ヘク從テ脱社員ノ義務ハ此ニ消滅シタル
モノトス

(第四) 負債ノ併減

債主カ負債主ヨリ新タニ從前ノ負債ニ對スル者ヨリモ高等ナル保證
物ヲ得テ之ヲ單ニ抵當トシテ受取り置クコトニ注意セサルトキハ右
ノ如キ高等ノ保證物ハ從前ノ負債ヲ併減スルノ效果ヲ生スヘシ例ヘ

ハ此ニ普通契約ヨリ生スル負債アリタルトキ此負債ニ對シ捺印證書
 ナ差入ルレハ普通契約ノ負債ハ此ニ消滅シ其代リニ捺印契約ノ負債
 ナ現出スルモノナリ即チ捺印契約發生シタル爲メ従前ノ普通契約ハ
 其中ニ併滅セラレタルモノト云フ可シ又例ヘハ一ノ契約又ハ負債ア
 リテ之ニ付確定裁判ヲ經ルトキハ其契約又ハ負債ハ裁判中ニ併滅セ
 ラレ以後ハ契約又ハ負債ニ由ラスシテ其裁判ニ由リ義務ノ執行ヲ求
 ム可キモノトス即チ最初ハ契約又ハ負債カ義務ノ原因ナリシモ裁判
 ノ爲メニ併滅セラレ其代リニ裁判カ義務ヲ生スルノ原因ト變リタル
 ナリ故ニ此場合ノ例ヲ組合ニ付テ云ヘハ組合ノ負フ所ノ負債ニ付裁
 判アレハ此ニ其負債ハ消滅シテ裁判ト代ハルカ故ニ爾後義務ノ要求
 ハ其裁判ニ起因スルモノトス故ニ債主カ組合ノ一人ニ對シ組合ノ負
 債ヲ出訴シ勝訴ノ裁判ヲ得タルトキハ他ノ組合員ヲ共ニ訴フル能ハ

サリシ特別ノ理由アルニ非サル限りハ再ヒ他ノ組合員ニ對シテ求スルノ權利ヲ失スヘシ

(第五) 時期ノ經過

此ハ我國ニモ行ハル、所謂出訴期限ナルモノニシテ凡ソ法律ニ規定セル期限内ニ出訴セサレハ權利者ハ其訴求權ヲ失フコトヲ定メタルモノナリ此出訴期限ノコトニ付テハ我國法律ニ取リテハ隨分目下必要ノ問題ニシテ論ス可キコト少カラサレトモ特ニ組合法ニ限りタルモノニアラサレハ此ニ深ク講究セス幸ニ組合法ヲ講シ終ルノ後猶學期ニ餘暇アレハ其時ニ講スルトシテ暫ク此ハ後日ニ讓ラン

組合員相互ノ權利義務ヲ論ス

[第一] 組合員ハ各自業務ヲ取扱フノ權利アルコトヲ論ス

通常ノ組合ニ於テハ組合員ノ間ニハ最モ親密ナル關係ヲ有スルヲ必

組合ニハ
執務ノ自
由アリ

要トシ從テ各自其業務ニ干涉シ事業ノ利害ヲ親シク視察スルノ權利
アルモノトス故ニ殊別ノ證據アルニアラサレハ組合員各自ハ其差入
金高ノ額ニ拘ハラズ總テ平等ノ資格ヲ有シ互ニ執務干涉ノ權ヲ妨害
セサランコトヲ要ス加之ス組合ノ一人己レカ組合ニ對スル所ノ諸權
利ヲ他ノ組合ニ抵當ニ差入ル、コトアルトキト雖モ猶業務ニ干涉ス
ルノ權利ヲ保有スルモノトス實ニ執務干涉ノ權ハ組合員各自ニアリ
テ相互ノ間最モ貴重ス可キモノナルカ故組合員タルノ權利ヲ害スル
此執務干涉ノ權ヲ妨害スルヨリ甚タシキモノハナシ尤モ執務上ノ便
宜ヲ計リ相互ノ間ニ於テ組合ノ一人又ハ數人ニ執務ヲ委任シ他ハ之
ニ干與セサルコトヲ約スルコトアレハ其カ爲メニ他ノ組合員ハ執務
干涉ノ權ヲ行フテ得サルコトアル可シト雖モ此等ハ相互ノ契約上斯
ク爲ス可シト取極メタル上ノコトナレハ勿論例外ナリトス然レトモ

商社ハ之
ニ反ス

組合外ノ世間ニ對シテハ組合員各自ハ組合ノ業務ヲ相當ニ取扱フコトニ付テハ各自其權ヲ有シ組合ノ代理ト見做シ得ヘキカ故ニ其權限ヲ知ラサル第三者ニ對シテハ時トシテ組合ハ内輪ノ契約ニ背キ組合ノ一人カ爲シタルコトニ付テモ組合ノ業務中相當ニ爲シ得ヘキコトナレハ其責ヲ辭スル能ハサルヤ勿論ナル可シ夫レ斯ノ如ク組合ニハ各自ニ執務干涉ノ權アルヲ以テ本体トスレトモ商社ノ如キ多人數ヨリ成立スル社ニシテ特ニ役員等ヲ撰擧シ執務ヲ任スルノ組織アル場合ニ於テハ株主タル者ハ同シク社員ナレトモ恣ニ商社ノ事務ニ吻ヲ容ル、ノ權ナク又株券ノ高ニ由リ其權利ニ異同アルモノナリ是レ組合ト商社ト異ナルノ一點ナリトス猶商社役員ノ權利及株主ノ權利等ニ付キ論スルコト巨多アレトモ先ツ差當リ仍ホ組合法ノ論ス可キ部分アルヲ以テ自餘ノコトハ暫ク後日ニ讓ラン

〔第二〕組合員相互ノ間ニ於テハ德義ヲ專ラトシ互ニ越權ノ所
 爲ナカラシムコトヲ要ス
 組合員相互ノ間ニ在リテハ最上ノ德義ヲ遵奉ス可ク獨リ法律上ノ義
 務ナシトテ不信ノ所爲アル可カラサルコトヲ要ス故ニ若シ組合ノ一
 人カ組合ニ由リテ以テ己レ一個ヲ私ニ利セントシタルコトアルニ於
 テハ其組合員ハ獨リ法律上義務ヲ破ラサルコトヲ證明スルノミナラ
 ス猶道徳上背信ノ所爲ナキコトヲ證明セサル可カラス例ヘハ組合員
 ノ一人カ獨リ組合ノ計算上又ハ業務上ノ事ヲ知り之ヲ他ノ組合員ニ
 秘シテ告ケス而シテ何ニカ其計算上又ハ業務上ノ事ニ關シ相互ノ間
 ニ契約スルコトアラハ若シ其事實ヲ陰蔽シタル爲メ他ノ組合員ニ損
 害ヲ來ス如キ事アルニ於テハ其契約ハ效力ヲ有セサル可シ
 此德義上ノ義務ヲ有スルコトハ獨リ實際ノ組合員ノミナラス組合ノ

設立セント計畫スル所ノ人々又ハ組合ヲ解散シテ殘務ヲ取扱フ人々ノ間ニ於テモ亦之ヲ守ラサル可カラス又組合員カ組合ノ一人ヲ組合ヨリ退ケントスル如キ場合ニ於テハ最モ深ク德義上ノ關係ヲ重シ苟ニモ背信ノ所爲アル可カラス然レトモ若シ組合ノ一人カ契約ニ背キ組合員タルノ義務ヲ盡サ、ルニ於テハ其組合員ハ他ノ組合員ニ向テ德義上ノ義務ヲ責ムルコトヲ得ス從テ放逐セラル、コトアルモ之ヲ拒ムコトヲ得ス是レ信義ヲ求メントスル者ハ己レ先ツ信義ヲ盡サ、ル可カラサルカ故ナリ

[第三]組合ノ利益ヲ損シテ己レヲ利スルヲ得サル各組合員ノ義務ヲ論ス

組合員ハ相互上信義ノ最モ重ス可キコトハ前ニ云フ如クナレハ組合員ハ組合ヲ犠牲ニ供シ私利ヲ營ムヲ得ス故ニ事苟モ組合ノ業務ニ關

組合員ハ
組合ヲ損
シテ己レ
ヲ利スル
ヲ得ス

スルニ於テハ出來ヘキ丈々共同ノ利益ヲ計リ己レ恣ニ獨有セサラン
 コトヲ要ス故ニ組合カ世間ト取引スルニ當リテハ之ニ從事スル組合
 員ハ成ル可ク組合ノ爲メニ利益ヲ増加シ正當ニ他組合員ト共ニ分配
 スルコトヲ勉ム可シ

此ニ組合員ノ一人カ組合ニ由リテ以テ私利ヲ營ムコトニシテ往々實
 際ニ現ハル、二箇ノ場合アリ

第一場合 卽チ組合ヨリ直チニ利得ヲ奪フコト

前ニモ論スル如ク組合ノ一人ハ組合ヲ犠牲トシテ一己ノ利得ヲ壟斷
 スルヲ得サレハ從テ組合員全体ノ承諾ヲ經ルニアラサレハ組合ト取
 引ヲ約シ由テ以テ己レヲ利スル能ハス例ヘハ組合ノ一人カ組合ノ爲
 メニ物品ヲ賣買スルニ當リテハ己レノ所有品ヲ組合ニ賣リ又ハ組合
 ノ所有品ヲ己レニ買ヒ以テ其間利純ヲ得ルコトヲ得ス今一ノ判決例

ナ示サンニ砂糖賣買營業ヲ爲ス組合アリ其組合ノ一人砂糖ノ相場ノ
 コトニ熟練セルヨリ砂糖買取りノ事ヲ組合ヨリ托サレタリ然ルニ其
 組合員ハ砂糖ノ相場ノ騰貴スルコトヲ見込ミ己レ先ツ之ヲ廉價ニテ
 買取り置キ砂糖ノ相場ノ騰貴スルヲ待テ高價ニテ之ヲ組合ニ賣リ附
 ケ己レカ先キニ買取置キタル品ナルコトヲ陰蔽シタリキ此場合ニ於
 テ右組合員ハ己レ所有ノ砂糖ヲ高價ニ賣リ由リテ得タル利益ハ不當
 ノモノナルカ故其利益ヲ組合ニ償却ス可シト判定セラレタルコトア
 リ又此ニ二人ノ組合員アリ五千圓ヲ以テ或ル鑛山ヲ買受ケ之ヲ他へ
 賣却シテ利純ヲ得ント契約セリ而シテ遂ニ之ヲ買取り更ニ六千圓ニ
 賣却シ利潤千圓ヲ二人ニテ分配スル積ナリシカ其一人ハ竊ニ之ヲ七
 千圓ニ賣リタルコトアリタリ此場合ニ於テハ他ノ組合員ハ其七千圓
 ニ付利益ノ分配ヲ受ケント要求スルノ權利アル者ト判定セラレタリ

此判決例ヲ見ルニ七千圓ニ賣リタル組合員ハ果シテ七千圓ニ賣ルノ見込アレハ前以テ其事ヲ他ノ組合員ニ告ケ知ラセサル可カラス然ルニ己レハ之ヲ隱シ恰モ六千圓ヨリ高價ニハ買手ナキカ如ク見セ掛ケ己レノミ千圓ノ利純ヲ得ントシタルヨリ遂ニ裁判所ニ於テハ猶之ヲモ分配ス可シト判定セラレタルモノト見ヘタリ之ニ由リテ觀レハ組合員相互ノ間ニ於テハ苟モ共同ノ利益ニ關スルコトハ覆藏ナク之ヲ打チ明ケサル可カラス若シ之ヲ陰蔽シテ獨リ利益ヲ得ントスルモ法律ハ之ヲ許サハルナリ又此判決例ニ由レハ設ヒ組合員中幾干ニ賣却ス可シト直段ヲ取極ムルモ若シ其ヨリ高價ニ賣レハ其分ヲモ互ニ分配セサル可カラズ獨リ賣リタル者ノ利得ト爲スヲ得サルモノハ如シ

第十六回

第二場合 正當ニ組合力得ヘキ利益ヲ押領スルコト

組合員ハ組合共有ノ財産ヲ己レ一個ノ爲メニ使用シ因テ獨リ利得ヲ占ムルコトヲ得サルノミナラス又組合ト競争シテ他ニ事業ヲ營ム如キコトアル可カラス例ヘハ此ニ二人ノ組合アリ業務上或ル鐵類ヲ買取ントシテ之ヲ其一人ニ委子タリ然ルニ其一人ハ偶マ或ル鑛山ノ傍ニ店ヲ開キ居リタルヨリ店頭ニ陳列シアル或ル賣品ヲ鑛夫ニ與ヘ組合カ注文セシ鐵類ヲ得テ之ヲ組合ニ送り後チ右鐵類ノ代價トシテ鑛夫ニ與ヘタル賣品ノ賣直ノ額ヲ記載シテ組合ヘ其代金ヲ請求セリ然ルニ組合ニ於テハ右鐵類ノ代金ハ鑛夫ニ與ヘタル賣品ノ實價ヲ以テ見積ルカ相當ナレハ其實價ヲ鐵類ノ代金トシテ拂渡ス可キモ賣直ノ額ヲ渡スヲ得スト主張セリ此場合ニ於テ裁判所ハ組合ノ抗辯ヲ採用シ抑モ組合ヨリ鐵類買取ノ委託ヲ受ケタル組合ノ一人ハ盡ス可キ丈ケノ周旋ヲ爲シ最モ廉價ニ之ヲ得テ組合ヘ給附ス可キ義務アリ而シ

テ若シ其組合員カ自己ノ店頭ニアル賣品ト交換シテ組合注文ノ鐵類
 ナ得タラハ其交換シタル賣品ノ實價ヲ以テ右鐵類ノ代金ト見做サハ
 ル可カラスト判定セリ又此ニ一ノ船舶ヲ組合テ所有シ其一人船長ト
 ナリ右船舶ノ使用上ヨリ得タル利益ハ互ニ分配セント約セリ然ルニ
 右船長ハ竊ニ船ヲ己レ一個限リノ商業ニ使用シテ非常ノ利益ヲ得タ
 リ此場合ニ於テ船長ハ其利益ヲ組合ト共ニ分配ス可キ義務アルモノ
 ト判定セラレタリ其理由ハ組合員ノ一人トシテハ專ラ組合ノ爲メニ
 共同ノ利益ヲ計ルコトニ盡力セサル可カラス決シテ私益ノ爲メニ共
 有ノ船舶ヲ使用スルヲ得ス但シ設ヒ船長一個ノ資金ヲ以テ商業ヲ營
 ミタルトキト雖モ又商業上ニ於テハ船長ハ一個限リノ營業ヲ爲スコ
 トヲ得ル習慣アル場合ト雖モ組合員間ニアツテハ此等ヲ以テ利益ヲ
 特有スルノ理由トナスヲ得ス

一千八百〇六年 紐育上等裁判所ニ於テ始審ノ控訴ニ係

ル判決

事實

〔事實〕

被告ノ一人タルヂー、カルスウエルハ金ヲ借ラントシテ他ノ一人タルエー、カルスウエルニ乞フテ曰ク余ハ約束手形ヲ作ラント欲ス幸ヒニ余ノ爲メニ之レカ連帶約束人トナルヲ願フトエー、カルスウエルハ之ヲ承諾セリ而シテ此手形ニ副署セル甲ナル證人アリ且甲ハヂーノ書記ナリシ依テエーハ甲ニ命シ其代理人トシテ之ニ代リテ約束手形ニ署名セシム且手形ノ金高ハ二百五十弗ニシテ期限ハ六ヶ月ナルヘキ豫定ナリシ其後未タ該約束手形ヲ作ラサル際ニヂーハエーニ話シテ曰ク余ハ兼テ借ラントセシ金額ノ不用ニ屬シタルヲ以テ嚮ニ談シタル約束手形ヲ作ルヲ要セスト然ルニ甲ハヂーノ書記タル資格ヲ以テエーニ一言ノ話モナク六ヶ月ノ期限ヲ縮メテ六十日トナシテ

始審裁判
所宣告

二百五十弗ノ約束手形ヲ作りタリ但シ是時エーハ少シモ之ニ關與セ
サリシ此ニ於テ始審ノ原告ハ該約束手形ヲ以テ訴求セシニ被告エー
カルスウエルハ其手形ニ署名セサルノ故ヲ以テ其請求ヲ拒絕セリ要
スルニ被告ヂーエーハ二人連帶シテ其責任ヲ負フ可キヤ否ノ争点ナ
リトス

(始審裁判所宣告)

始審裁判所判事ハ陪審官ニ命シテ曰ク陪審官

ニ於テ此約束手形ハヂーカ金子ハ不用トナリタリトエーニ語リタル
以前ニ作ルモノト認ムルトキハ被告ハ其責ヲ負ハサル可カラス然レ
トモ若シ其以後ニ出來タルモノト認ムルトキハ則チエーカ甲ヘノ委
任權ヲ取消シタル後ナルヲ以テ其約束手形ニ對シテエーハ責任ナカ
ルヘシト

然ルニ陪審官ハ該手形タルヂーノ該話ノ以前ニ出來タルモノト認定

控訴被告
ノ申立

セシナ以テ原告ノ勝訴トナリタリ
然ルニ被告ハ該約束手形ニ署名セサルヲ以テ理由トナシテ此ニ再審
ノ訴ヲ爲シタルモノナリ

(控訴被告ノ申立)

控訴被告答辨シテ曰ク概シテ本人ノ委託セシ一
般代理權ノ範圍内ニ於テ代理人ノ爲シタル事柄ハ本人其責任アリト
ス是レ代理法ノ原則ナリ

説明 凡一般ノ代理權内ニ屬スルコトナレハ特ニ某所爲ハ委任權
外ナリト雖モ本人其責ニ任セサル可ラス例セハ余ハ平日他人ニ
托シテ物品ヲ買ハシムルニ當リ常ニ余カ物品ヲ買フコトヲ禁セシ
商人ニ就テ某物品ヲ買ヒ來ルトキハ該代理人ノ行爲ハ特ニ其場合
ニ於テ委任權ヲ越ユルト雖モ余ハ其責ニ任セサル可ラス何トナ
レハ此行爲ハ該代理人ノ一般ノ委任權内ナレハナリ

判決

此事件ニ於テ甲ハ最初六ヶ月ノ期限ヲ以テ二百五十弗ノ約束手形ヲ作ル職權アリ其職權内ニ於テ六十日ノ期限ヲ以テ二百五十弗ノ約束手形ヲ作りシコトハ決シテ代理權ナキモノトスルヲ得ス又唯ヂーカエーニ告クルニ借用セント欲セシ金圓ノ不用トナリタルコトヲ以テシタルノ一事ハ未タ甲ノ代理權ヲ取消シタルモノトスルヲ得サルナリ然レハ本人タルヂーエー二人ハ其責ニ任ス可キハ至當ノ理ナリト

判決 控訴裁判所判事之ヲ裁決シテ曰ク特別ノ委任權ハ嚴密ニ之ヲ行ハサル可カラス故ニ此時甲ハエーノ爲メニ六ヶ月ノ期限ニテ二百五十弗ノ約束手形ニ署名スルコトヲ委任セラレタルモノナレハ甲ハ嚴密ニ其委任ヲ行ハサル可カラス若シ少シニテモ越權ノ所爲ニ由リテ爲セシコトハ決シテ本人其責任ナキモノトス本件ニ於テヂーノ談話ハ甲ノ委任權ヲ取消スニ至ラストスルモ甲ニ越權ノ所爲アリシヲ

リ受ケ其船賃トシテ三百磅即チ日本ノ千五百圓餘ヲ拂ヒ其餘ノ殘金ハ爲替手形ヲ以テ仕拂フヘキコトヲ約セリ然ルニ航海中借主ハ破産シタルヲ以テ船主ハ其荷物ヲ差留メント請求セリ然レトモ前後二度ニ賃金ヲ支拂フノ規則ナキヲ以テ該荷物ヲ差留ムルコト能ハスト裁判セラレタリ

右ノ例ト少シク異ナリタル事實ナレトモ全ク反對ノ裁判アリタル場合アリ即チ或ル荷物ノ龍動ニ到着後船賃ヲ仕拂フノ約ヲ以テ銀行券ト同一ニシテ最モ信用アル且ツ充分有効ノ手形ヲ振出シタリ此場合ニ於テ船主ハ差留權アリト裁判セラレタリ何トナレハ荷物ハ船賃仕拂ト共ニ引渡ストノ約アルモノト看做セハナリ

英吉利法律ノ原則トシテ物ヲ借ルカ又ハ負債ヲ爲ス如キ義務ノ存スルトキニ相手ノ者爲替手形ヲ與フルトキハ前約ヲ打消スノ原由トナ

ルモノナリ何トナレハ爲替手形ニ引受人トシテカ又ハ裏書人トシテ
 記名アル負債主ハ所謂「てんしどれーしよん」ヲ與ヘタルモノト見做セ
 ハナリ

素ヨリ予ハ茲ニ此「ちやーどる」トて「又」ハ其他ノ約定ニ關シテ原理
 ナ詳述スヘキモノニアラスト雖モ今其大要ヲ述フヘシ

蓋シ「ちやーどる」トて「タル」荷物到着ノ上賃金ヲ拂フヘキカ或ハ其
 約束ヲ爲シタル當時之ヲ拂フヘキモノナルヤヲ考フルコト最モ肝要
 ナリ今之ヲ一見スルトキハ容易ニ判定スヘカラサル場合アリ然レト
 モ一千八百六十二年ノ條例ヲ以テ船主ヲ保護シ倉庫會社ヘ其船賃ニ
 相當スル金額ヲ預ケシメ以テ握有權ヲ保護スルコト、セリ此布告ニ
 依リ龍動ノミナラス其他ノ諸港及ヒ殖民地ニテモ倉庫會社ヲ設立シ
 之ニ荷物又ハ相當ノ金額ヲ預ケ以テ充分ナル保護ヲ與ヘリ今如何シ

テ倉庫會社へ預ケ置クカ其手續ヲ述フルハ敢テ無益ノ事ニアラサル
ヘシ

右ノ布告ニ由リテ船主又ハ船長ハ之カ荷物ヲ倉庫會社ニ積揚ルコト
ヲ得ルノミナラス若シ荷主ニ於テ「ふれ」ト「レ」ノ仕拂ナキトキハ其仕拂
ナキ旨ヲ倉庫ノ持主ニ通知シ持主ヲシテ其荷物ヲ留置セシメ以テ差
留權ヲ保護スルモノトス而シテ倉庫ノ持主ニ於テ之ヲ留メ置カサル
トキハ其差留權消失スルヲ以テ倉主ニ對シテ損害ヲ要求スルモノト
ス若シ又荷受主ニ於テ其荷物ト同額ノ金圓ヲ倉庫會社ニ預ケタルト
キハ差留權消失スルモノトス斯ノ如ク荷受主カ倉主ニ預ケタル後十
五日内ニ賃錢ヲ拂ハス又其預金ヲ船主ニ渡スヘカラストノ請求ナキ
トキハ該金圓ハ船主ノ請求次第之ヲ渡シテ可ナリ若シ金ヲ預ケシ人
通知ヲナシ幾千ノ金額ヲ拂フヘシト云ヒタルトキハ之ヲ船主ニ拂ヒ

尙三十日ヲ經テ何等ノ事柄モ生セサルトキハ餘金ハ之ヲ預主ニ拂戻
 スモノトス若シ又預金モナク仕拂金モナクシテ既ニ九十日ヲ過クル
 トキハ倉主ハ其荷物ヲ賣却シ而シテ賃錢ヲ船主ニ拂フヘキモノトス
 此布告ニヨリ持主ハ其入費ニ對シテ荷物差留ノ權ヲ有セリ要スルニ
 該布告タル取引ヲ確實ナラシメ商船ノ業ヲ獎勵スルニ出テタルモノ
 ト云フヘシ

今諸君ノ便利ヲ計リ左ニ法律上特別差留權ヲ有スル人々ノ目錄ヲ擧
 ケン

- 第一 會計檢査業者ハ其帳簿ニ對シテ特別差留權ヲ有ス
- 第二 仲裁人ハ其言渡シタル書類ニ對シテ特別差留權ヲ有ス
- 第三 競賣人ハ其賣揚高ニ對シテ特別差留權ヲ有ス
- 第四 酒ノ預リ人ハ倉敷料ノ爲メ其酒ニ對シテ特別差留權ヲ有ス

- 第五 馬車製造人ハ其修繕シタル馬車ニ對シテ特別差留權ヲ有ス
- 第六 代言人ハ其書類ニ對シテ特別差留權ヲ有ス
- 第七 染物屋ハ其染物ニ對シテ特別差留權ヲ有ス
- 第八 馬ノ金靴師ハ其馬ニ對シテ特別差留權ヲ有ス
- 第九 馬ヲ馴致シ又ハ競馬ニ使用スル爲メ馬ヲ仕立ツルモノハ其馬ニ對シテ特別差留權ヲ有ス
- 第十 水車ヲ以テ米ヲ舂クモノハ其米ニ對シテ特別差留權ヲ有ス
- 第十一 印刷師ハ其印刷セシ物品ニ對シテ特別差留權ヲ有ス
- 第十二 海中ニ於テ荷物ヲ救ヒ上ゲタル人ハ賞與金ノ爲メ其荷物ニ對シテ特別差留權アリ
- 第十三 船舶ノ製造人ハ其製造又ハ修覆シタル船舶ニ對シテ特別差留權ヲ有ス

第十四 仕立屋ハ其仕立タル衣類ニ對シテ特別差留權ヲ有ス

第十五 遠方ニアル人ヨリ依頼ヲ受ケタル代理人ハ其送致アリシ

書類ニ對シテ差留權アリ

第十六 銀行ヲ營業トスル人ハ負債主ニ對シテ特別差留權ヲ有ス

次回ニ於テハ買主タルモノノ代價ヲ仕拂ハサルトキハ賣主其物品ニ對シテ差留權ヲ有スル事柄ヲ述フ可シ

第四回

永ク諸君ト面會スルヲ得サリシカ前日ニ比シテ今日ハ大ニ生徒諸君ノ増サレシハ皆余カ友人ナル本校員諸氏ノ勉強ニ由リテ然リシコトナラン

回顧スレハ先回ノ講義ニ於テハ習慣法上差留權ヲ有スル人ノ目錄ヲ掲ケテ終レリ今日ヨリハ夫ノ大切ナル衡平法上之ニ關スル緊要ノ事

柄ヲ講述セント欲スル以前ニ於テ先ツ銀行ノ取引先ニ對シ其預ケ置
ク所ノ抵當物品ニ關スル担保ノ權利并ニ先方ノ者ノ有スル權利即チ
双方ノ取引ヨリ生スル損失ノ補償ニ充テン爲メニ備フル所ノ抵當物
品ニ關スル權利義務ノ事項ヲ論セントス

銀行トハ諸君モ既ニ知ラル、如ク金錢ヲ取扱フ所ニシテ其沿革ノ如
キハ特更ニ茲ニ説明スルヲ必要トセサルナリ銀行ハ金錢ノ取扱ヲナ
スモノニシテ其欠クヘカラサルモノナルコト及其商業ノ何タルコト
ハ人ノ能ク知ル所ナリ銀行ハ商業ニ利益スルモノニシテ銀行ナケレ
ハ商業盛ニ行ハレサルナリ即チ銀行ハ凡テノ商賣ヲ補佐連續スルモ
ノト謂フ可シ而シテ今日ノ銀行ハ金ノミナラス商賣人ニ代リテ其取
引ヲ爲スモノ故ニ銀行ナケレハ活潑ナル商業行ハレサルナリ夫レ方
今ノ勢ニテハ商賣ノ本業者ニシテ今ヤ金錢ヲ以テ取引スルコトヲ止

メ物品ヲ取扱フテ取引シ而シテ商人ヲ使用シテ取引スルノ有様ナレ
 ハ商人ノ名アラサルモ其實銀行ノ代人ニ過キストハ人ノ屢言ヘル所
 ナリ元來銀行ナルモノハ人ヨリ預ケラレタル金ヲ預リ其金ヲ保管シ
 差圖ニ應シテ之ヲ拂戻スヲ業トス故ニ此簡單ナル業ニ從事シ取引人
 ニ於テ借越ヲナサ、ルニ於テハ差留權ノ場合起ラサルナリ
 銀行ハ此外動産不動産ヲ問ハス一切ノ財産及商賣品ニ至ルマテモ抵
 當ニ取リテ金ヲ貸スヲ業トス故ニ銀行ハ取引人ノ預ケタル金錢及其
 財産ニ關シ常ニ商賣スル間ニ於テ預リ其手ヲ過クル者ニ對シ差留權
 ナ有ス
 既ニ前段ニモ述ルカ如ク差留ニハ特別ト普通トノ二ツニ分レ其特別
 ノ差留權トハ或ル馬ヲ飼フ爲メニ勞力スルコトアレハ之レニ報ユル
 金ヲ拂ハサル中ハ其馬ヲ差押ヘルト云フカ如キモノニシテ特別一個

ノ取引ニ屬スル普通ノ差留トハ銀行ノ商賣品ニ對シテ差留權ヲ有スルカ如キコトニシテ銀行ノ其何レノ物品タルヲ問ハス一般通常ノ取引ニ關シ差留權ヲ有ス是其特別差留權ト異ナル所ニシテ銀行ハ普通ノ差留權ヲ有スルモノナリ全體ニ銀行ハ他ノ金ヲ預リ又預ケタル人引出シニ來ルトキハ之ヲ拂渡スチ常トシ其預リ又ハ渡スコトアルカ爲メ銀行ト取引人ノ間ニ生スル貸借ノ關係アリ若シ預ケタル人此關係ノ計算差引ヲ越エ其預ケ金ヨリ多分ニ引出ストキハ預カリシ銀行ノ位置ヲ代ヘテ貸主トナルコトアリ斯ノ如ク預ケ人ハ餘分ノ金額ヲ銀行ヨリ引出シタルトキハ銀行ハ其額ニ對シテ差留權ヲ有スルモノトス若シ兼テ預ケアル抵當品アリテ一度貸借ノ額ヲ超ユルトキハ差留權

夫生シ而シテ其引越高ノ諸口同シカラサルモ引出シ過キタルモノ同
 シ一口ノ計算中ナレハ右ノ抵當品ニ對シ差留權モ引キ續クモノトス
 若シ又銀行ハ特種ノ金ニ對シテ抵當品ヲ取り置キ其物ノ定リアル場
 合ニハ銀行ハ該品ニ對シテ一般ノ差留權ヲ有セサルナリ猶此事柄ヲ
 明瞭ナラシメンカ爲メニ一例ヲ掲ケン
 茲ニ銀行ニ對シテ千圓ノ負債ヲ帶フル者アリテ之ニ千五百圓ノ抵當
 ナ差入レ置キタリ此場合ニ銀行ハ他ノモノハ爲メニ此五百圓ヲ差押
 フルロトヲ得ス何トナレハ是レハ通常ノ取引上ヨリ來ルモノニ非サ
 ルヲ以テナリ通常ノモノナレハ一般取引ヲ爲ス際ニ餘分ノモノアレ
 ハ之ヲ差押ヘテ他ノ口ノ辨償ニ充ルコトヲ得レトモ特別ノ契約ヲ以
 テ抵當ニ差入レタルモノハ差押ヘルコト能ハサルモノトス故ニ一般
 ノ說ニ於テハ凡爲替手形及其他ノ物品ニ對シテハ差留權ヲ有スレト

モ若シ特別ノ約束アリテ此權利ヲ制限シタルノ場合ヲ除キ凡テ之ヲ
差押エルコトヲ得ルモノトス
最早以上講述スル所ニ由リテ了知セラレシナランカスノ如ク差押ヲ
可カラサル物品ハ必ス明示シタル約定ニ由ラサル可カラス例ヘハ從
前ノ借金ニ對シテ一ノ約束手形ヲ差入レ其後ノ取引ニ於テ又借り分
ノ多カリシ時ト雖モ銀行ハ爲メニ右ノ手形ヲ差押ヘント欲スルモ得
ヘカラサルナリ此ニ於テカ通常商賣人ノ有スル差留權ト銀行ノ有ス
ル差留權ト其異ナルノ點ヲ知ラサル可カラス此差異タル全ク抵當ニ
取ル物品ノ性質ニ由リテ生スルモノニシテ若シ銀行ノ差押ヲ爲シ能
ク可キ物品ニ付テハ當ニ之ヲ差押フルメニナラス期限至レハ其手形
ヲ取立ルノ權利アルモノトス何トナレハ銀行ハ爲替手形或ハ約束手
形ヲ預ルトキハ他ノ人ト同シク其手形ヲ流用スルコトヲ得若シ其處

置振ヲ附ケサルトキハ流通スヘキ手形モ無用ニ屬スルニ至ルヲ以テ
 之レカ處置ヲ爲シ得ルヤ勿論ノコトナリトス蓋手形ヲ有スル銀行其
 期限至レハ郵便ヲ以テ先方ニ通知ヲナシ先方ノ者モ又其前人ニ通知
 スルコトハ是レ銀行ノ手形ニ盡ス可キ當然ノ業ナレハナリ何故トナ
 レハ其理由ニニアリ第一ハ古來ノ慣習ニ由リ第二ハ保證契約ニ由ル
 モノ是ナリ
 第一 爲替手形ハ引受人ニ金ヲ貸シタルコトアルヨリ來ルモノナレ
 ハ振出人ハ自身ニ損害ヲ招カサル様注意シ相當ノ手續ヲ盡スコト肝
 要ナリ
 第二 第一裏書人第二裏書人第三裏書人ト同シク其手續ヲ盡ス可キ
 モノナルヲ以テ先其期限ノ經過セサル中ニ銀行ハ其手續ヲ盡サシム
 ル様相當ノ處置ヲナスヘキモノナリ

銀行ノ此權利ヲ有スル理由ハ預ケ主ノ害トナリ又銀行ノ害ヲ防クニ在リ即チ預ケ主ノ手形ヲ受取ラサル時ハ從テ銀行モ亦之ヲ受取ルコト能ハス又銀行ニ於テ貸渡シタル所ノ金ノ戻ラサル時ハ銀行ノ損トナル者ナレハ銀行ハ差留權ニヨリ此處分權ヲ有スル所以ナリ是ヲ以テ銀行ハ所持人ノ位置ニ立テ爲替手形ヲ執行スル事ヲ得ル者トス上來述フル所ハ銀行ノ有スル差留權ノコトナリ此ハ衡平法ノ理論或ハ判事ノ判決例トヲ併セテ此ニ至ルマテ發達セシ規則ニシテ其效力タル立法官ノ制定セシ法律ニ勝ルモ劣ラサルモノニシテ之ト同様ノ力ヲ有スルモノナリ銀行差留權ノ規則タル實ニ右ノ發達法ニヨリ此ニ進ミ來リシモノナリ

元來衡平法ハ理論ニ合フタル數多ノ裁判例ヨリ出テシモノニシテ此裁判例タル終身法律ノ實行ヲ業トシ且裁判官ノ職ニ居リシ人ノ作レ

ルモノナリ則チ商賣ノ日チ追フテ盛ニ赴クヲ見テ判事ハ習慣法ヲ基礎トシテ規定シタルモノナレハ立法者ノ制定シタルモノヨリモ全キ所アル可シ何トナレハ常ニ法律ヲ執リ扱ヒ實地裁判ヲ行ヒ居ル判事ト作リシモノナレハナリ差留權ノ賦與スルハ實ニ古ノ習慣ニヨリ其今衡平法上ノコトチ此ニ講スルノ暇ナケレハ畧ス次回ニハエグイテブルリエン」ノコトチ講セン此大切ナルコトニニアリ第一物チ賣リシ人代金チ受取ラサル下キハ其賣リシ物品ニ對シテ差留權アルコト、第二ニハ航海中ニシテ未タ其物品ノ買主ニ渡ラサル物ニ付テ途中ニテ之チ差押ヘ差留權ヲ行フコト是ナリ第三ニハ船中ニ於テ差留權ノ規則ヲ講スル所以ハ先回以來今日ニ至ル本回ニ於テ銀行者差留權ノ規則ヲ講スル所以ハ先回以來今日ニ至ルマテ堅苦シキ習慣法ノコトチ述ベ來リシカ凡ソ國ノ關ケルニ從テ法律モ進ミ遂ニ衡平法上ノ差留權ノ規則チ生スルニ至レリ而シテ銀行

萬國法律週報發行廣告

第四五號出版

每週金曜日出版●一冊定價金四錢五厘●八冊豫約前金三十貳錢●十六冊同六拾錢●三十二冊前金壹圓八錢●六十四冊同壹圓九拾錢●但東京區外并各地方遞送ハ別ニ一冊ニ付郵稅壹錢宛申受ケ候●郵便切手代用ヲ禁ス

主筆 英吉利法律學校幹事兼講師 法學士 正七位 渡邊安積

今ヤ我日本帝國ハ條約改正ヲ決行シ全國ヲ開放シ外人ノ雜居ヲ許シ裁判權ヲ恢復シ内外人ヲ問ハス一律ニ我國法ヲ以テ之ヲ處セントス是レ實ニ我國ヲシテ文明國ノ列ニ加ヘ眞正獨立ノ一帝國タラシムル者ニシテ我國民タル者各應分ノ力ヲ出シテ以テ國家ニ盡スヘキノ期ハ抑モ今日ヨリ急且切ナルハナシ就中法律學ヲ以テ己レカ職トスル者ニ至リテハ須ク其技能ヲ盡シ一方ニ於テハ我國法律ノ改良ヲ補翼シ他ノ一方ニ於テハ同胞三千七百萬人ヲシテ法律上ノ智識ヲ涵養セシムルコトヲ勉メサルヘカラス法學士渡邊安積先生大ニ茲ニ慨スル所アリ英吉利法律學校諸氏ノ補助ヲ借り萬國法律週報ヲ發行シ以テ聊カ前述ノ本分ヲ盡サントスルノ舉アリ乃チ本店ニ於テ之ヲ發行シ廣ク國內ニ頒布セント欲ス

明治二十年一月

萬國法律週報發行所

法律書店

錦

水

堂

○英國ノルマントン號 沈没ニ付
キ廣告

英國商船法 正 價

今般英船ノルマントン號沈没ニ付キ船
長ノ義務責任ニ關シ攷究ヲ要スル論ヲ
俟タス幸ニ法學士山田喜之助氏譯

述英國商船法ハ此事ヲ論スル最モ詳カナ
レハ有志者ノ一讀ヲ煩ス

英國私犯法三版 正 價

ノルマントン號沈没ニ付キ死者ノ遺族ヨ
リ民事私訴ヲ起シ損害賠償ヲ要求シ得ヘ
キトニ關シテハ帝國大學法學協會

ニ於テハ英國カンヅベル條例ニ於テ其權
アルトナ可決シタリ幸ニ英國私犯法增訂
第三版第二卷第六編ヲ精讀セラヨ又特ニ
第四百四十丁ヲ注意セラレヨ 山田先生
ハ蚤トニ此事ヲ確論セリ

東京々橋區三
十間堀壹丁目 九春堂

萬國法律週報廣告

今般萬國法律週報發兌候ニ付校
外生諸君ノ爲メ錦水堂ト特約ヲ
結ヒ八冊前金貳拾四錢ヲ以テ賣
渡シ候但シ東京區外ハ壹冊ニ付
郵税金壹錢ヲ申受ケ候

萬國法律週報第壹、貳、參、四、五、六號出版
セリ○第壹號目次○法理學○私犯法○不
完全義務ノ約定○英吉利制定法撮要○判
決例并註解○英國狀師增島六一郎君ノ
ルマントン」號事件ノ演說○攻法會記事
○討論筆記○雜件○第貳號目次○私犯法
○判決例并註解○非戶主子弟ノ財產權
(山口正毅)○判事登用試驗英國賣買法解
釋(法學士高橋捨六)○法學士江木衷君法
學指針ノ演說○討論筆記○雜件

英吉利法律學校

法學士高橋捨六先生著

英米身分法

洋製美本全一冊
定價九拾錢

十月廿五日發兌

身分法とは一に親族法とも稱し婚姻離婚を始め夫婦親子後見人及び主人奴僕等に關する法理を網羅詳論せるものなり殊に本書は高橋先生一には專修學校の教科用ニ供せんが爲め汎く英米の法典を參照し章を分て節とし節を分て則とし專はら簡易明解を主とせられたる著述なれば恰も一部の法典を見るに異ならず故に法律に志すの人は勿論苟も翻たり夫妻たり後見人たる身分ある人は熟讀し賜ふべき良書たり尙購讀書諸君の便宜を計り目錄書并郵券寄送次第進呈す

英吉利法律學校
教科書賣捌所
神田區表神保町一番地角
錦水堂

發賣所 銀座三丁目
博聞社

訴訟鑑定約定起算相談

ばりをとる 法學士 增島六一郎 英米
ノ實地ヲ研究スルノ後 第一着 法誤リタルカ爲メ

我訴訟ノ有様ヲ見ルニ 殊ニ然
終ヒニ救フニ道ナ 地方事件 依テ 通
キモノ少ナカラス

信局 代言 鑑定辯護立 内外商業
取引等ニ關 社起業約定

シ當初ヨリ 相談 害失敗ナ 未萌 防クノ
ントス 倫敦 ナル船舶輻輳ノ中央ニ於 衝

且英國 倫敦 實地ニ專ラ研窮シタル 衝
突保險 等ニ關スル訴訟ハ專務 遠地ノ

君ト雖事件ノ情况ニ 回答 セン但シ規則
御記送アラハ急速ニ 回答 書ハ御申越次

第進呈 スヘシ

東京日本橋區 本局 横濱居留地 出張所
檜物町六番地 六十番館

法學士渡邊安積講義

アンソ 氏契約法 第十四編 定價金拾錢 郵稅金貳錢

第一、四、六、七、八、九、十一編ハ各八錢ツ、
第二、三、五、十、十二、十三編ハ各拾錢ツ、
アンソン氏契約法ハ英吉利契約書中最モ
新シク最モ精覈ノモノニシテ英國大學校
我帝國法科大學及英吉利法律學校等ニ於
テ教課書トナス者ナリ本書ハ慣習法衡平
法制定條例等ノ中ヨリ契約ニ關スル規則
ハ悉ク網羅シ英國現行法ハ一モ洩ス所ナ
シ●本書ハ先キニ出版ニ着手シタル以來
大ニ江湖諸君ノ愛讀ヲ辱シ許多ノ冊數ヲ
賣盡シタルニ不幸ニモ講義者事故アリテ
久シク中絶ノ姿ニ相成リ愛讀諸君ヨリ頻
リニ督促ヲ蒙リ恐縮ノ至リニ堪ヘス然ル
ニ今日ヨリ再ヒ舊業ヲ繼キ續々殘編ヲ出
版シ速ニ竣功スルコトヲ期スヘシ
但初編ヨリ御入用ノ御方ヘハ全部取揃ヘ
差出可申候

神田區神保町一番地

錦水堂

THE IGIRISU HORITSU
GAKKO TEXT-BOOK 英文法

律書

第一、二、三、四、五號出版セリ●第一號目次
○ブラツクストン氏英法註釋○スミス
氏商法○スミス氏訴訟法●第二號目次
ラツクストン氏英法註釋○マークヒル
氏法律論綱○アンダーヒル氏私犯法○ア
ンソン氏契約法●第三號目次○アンダー
ヒル氏私犯法○アンソン氏契約法○ブル
ーム氏英法註釋○スミス氏商法
第四號目次○アンダーヒル氏私犯法○ア
ンソン氏契約法○スミス氏訴訟法○ブル
ーム氏英法註釋

神田錦町 英吉利法律學校

神田小川町通 錦水堂

明治二十年一月八日

(定價金貳拾錢)

持主 增島六一郎
印刷人 大谷木備一郎
編輯人 澁谷 爾
發行所 神田錦町貳丁目貳番地 英吉利法律學校